童貞を殺す服の描き方

Niche
ニッチな描き方シリーズ

一迅社



はじめに

「童貞を殺す服」とは、ある一枚のファッションモデルの画像とともに投稿され、そのキャッチーな語感と男性を強く惹きつける服装によって瞬く間に拡散し、ネットを中心に話題となって知名度を得た、女性のある種の服装を指すワードです。

今ではさまざまな意味を持って広がっていますが、本書では、「一見して構造を把握しづらいデザイン」「清楚ながらもカラダのラインを強調し魅力的に見せる形状」から、女性経験の少ないピュアな男性の脅威になる服装、と定義しました。

そして独自の研究を重ね、最もそれを体現するであろう「ブラウス × スカート」「ワンピース」について、その描き方を高密度でレクチャーしています。「童貞を殺す服」の定義は人それぞれ異なるかもしれませんが、本書が皆さんのイラスト制作や実生活のお役に立てることを願います。

キミも、可憐な女の子に“最強”にかわいい一着を着せてみよう！



童貞を殺す服の描き方



Contents

描き下ろしイラスト&メイキング

＊本書における各ステータスの意味(各5段階評価)**＊**

攻撃力…悩殺値／守備力…清楚値／殺傷力…複雑度
敏捷性…カジュアル度／魅力…可愛さ／知力…クールさ



童貞を殺す服の代名詞とも言える組み合わせ。飛び抜けた特徴はないが、攻守のバランスのよさや飽きが来ないシンプルな構成など、まさに王道スタイル。アウターや小物の選択肢が幅広く、装備次第でどんな相手でも撃墜できる汎用性の高さを備える。

No.01

ベーシックなクラシックスタイル編

ブラウス＋ハイウエストスカートというシンプルな組み合わせだからこそ、丁寧に仕上げたい。豊満なバストや裾から覗く脚線美など、攻撃力を高めるポイントも要チェックだ。

ラフ&線画

デートの待ち合わせ、落ち合って真正面から見据える構図。カバーに使うことを想定して服を見せつつ、女の子の目をまっすぐカメラに向ける。小首を傾げることで動きを付ける。



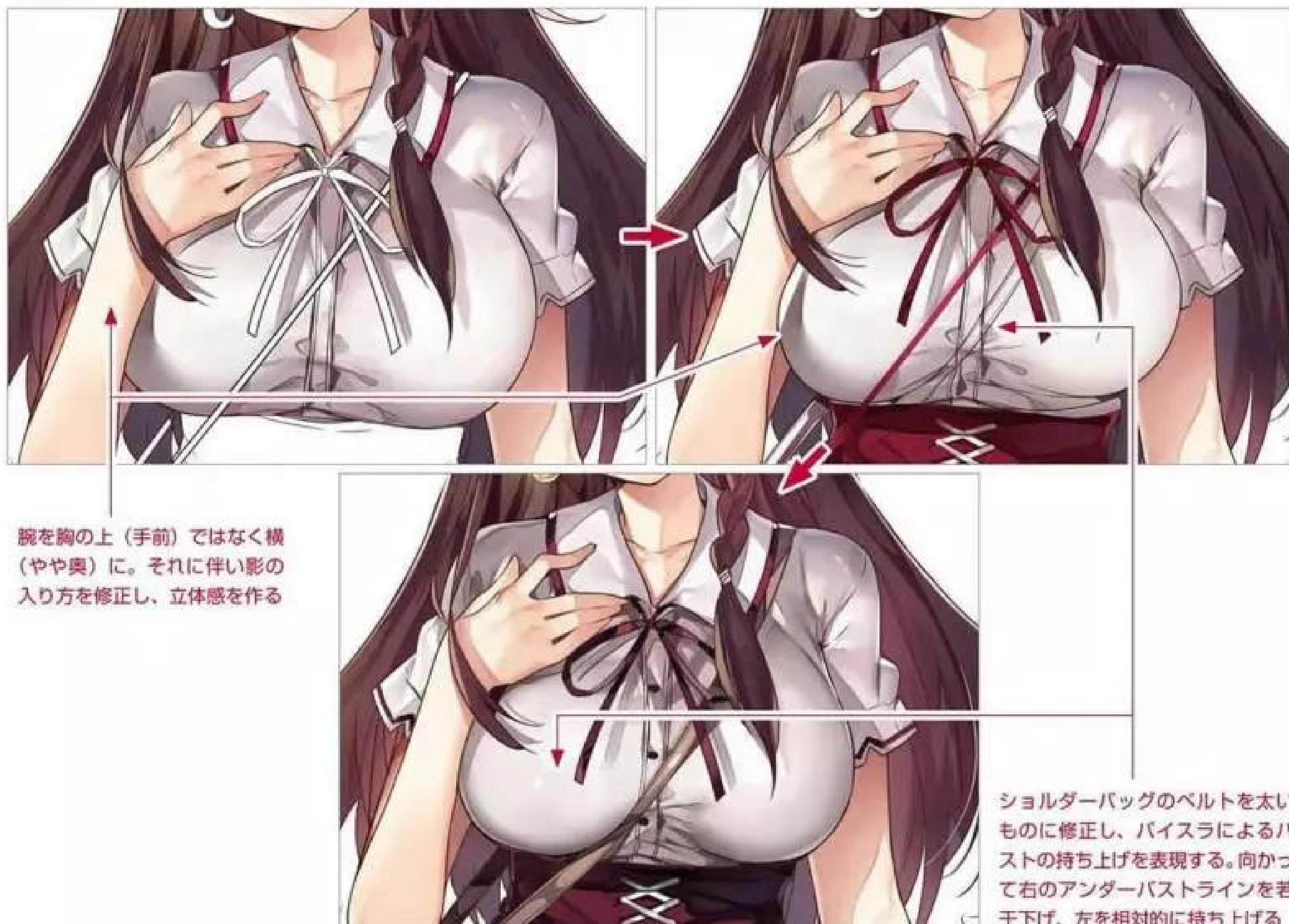
色置き

ワインレッドを基調に色を置く。色数を多くするとシックな雰囲気が崩れるので注意。



髪や鞄も同系色に近い色合いを選択するとまとまりが出る

弾力性の表現

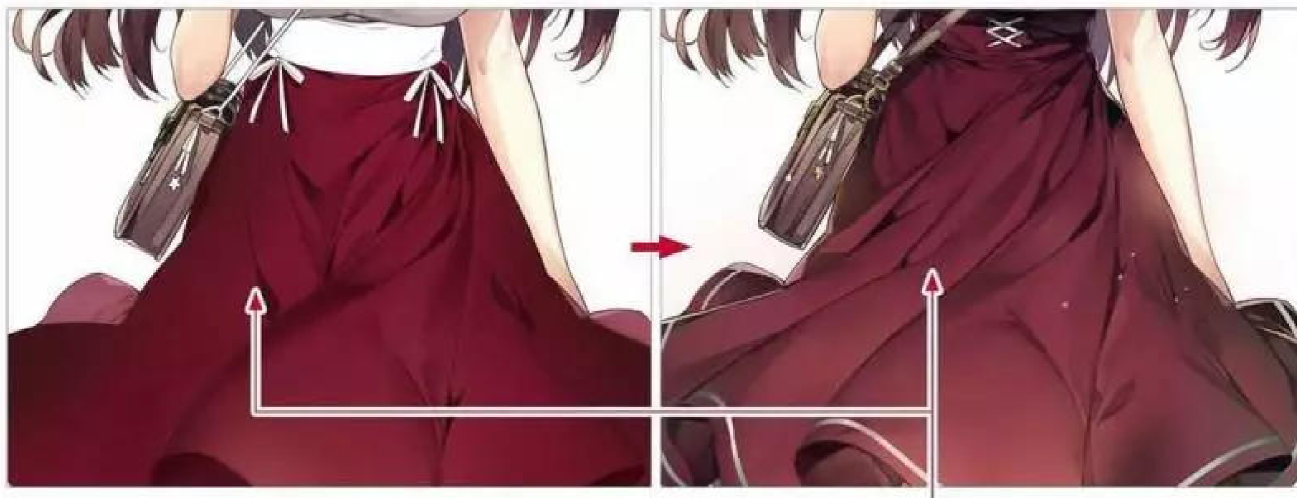


腕を胸の上（手前）ではなく横（やや奥）に。それに伴い影の入り方を修正し、立体感を作る

ショルダーバッグのベルトを太いものに修正し、パイスラによるバストの持ち上げを表現する。向かって右のアンダーバストラインを若干下げ、左を相対的に持ち上げる

風になびくスカート

スカートが風にあおられた表現。影付けの段階では線画通りだが、風の侵入角度を変更し、沈み込んだ印象を取り除く。さらにコントラストを強め、ウエストの細みやはためいてできた谷を強調する。



真後ろから前方地面の方に向かう風を、画面右から斜めの進入角度にし、裾が自然に舞い上がっている形状に

両端のハイライトを強めすぎたので、ややぼけた印象になる。こちらも影や布本来の色合いに調整してくっきりと見せる



脚の残光

物理的にさえぎられて見えない部分に肌色の光を入れ、裾が上下して一瞬残った脚のシルエットを作る。実際には影になって沈む脚が強調され、足元が明るくなる。



腿の半分いかないくらいの長さ。見えている脚の影の印象も抑えられ、脚の細さやスカートの内側の魅力を高める

完成





ステータスを守備力と魅力に全振りした、「守ってあげたくなる度」ナンバーワン。随所に覗くこだわりが、ただの可愛い女の子とは違うことをアピールしている。衣装に合わせてツーサイドアップにした髪は、あざとさを自覚している証左。

No.02

甘ロリ系変形ディアンドル編

甘ロリ系といえば白とピンク。カジュアルからギリギリ外れない甘さで「童貞を殺す」にはどんなバランスで要素を詰めればいいのか、今回の作例から解説していく。

下書き＆線画

こちらも待ち合わせのイメージ。先に着いて待つのが好きな印象を与える柔らかい微笑みと手の振り方がポイント。ディアンドルのエプロンに相当する部分がオーバースカート状になっている。



色置き

オーバースカートだけをピンクにすれば、白４：ピンク６とちょうどいい配色バランスになる。

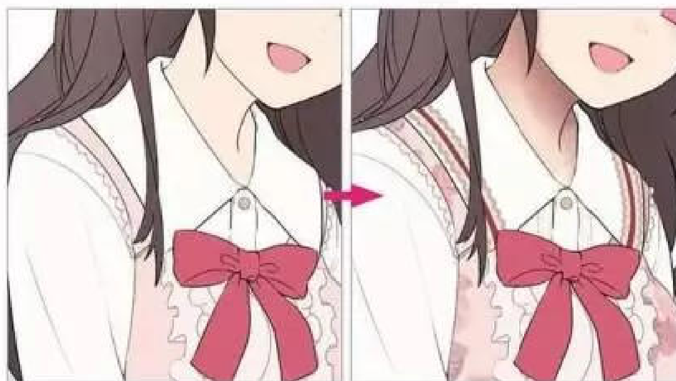


アンダーのティアードスカートにもほのかにピンクをかけて、甘みをプラス

テクスチャ素材でワンポイント

花柄でファンシーなイメージに。フリルなどでシルエットがかさばると“重く”なるので注意。





リボンとフリルに負けないよう、ブラウスの襟、前立て（ボタンで留める、身頃が重なった部分）にレース素材で装飾

※レース素材の使い方は P.54 へ



本型ハンドバッグにも、洋書の表紙のような箔の模様を貼り付ける

ディテールアップ



ブラウスは真っ白ではなく、スカートからの光の反射などを考慮して若干赤に寄せる。



あとで調整することを考慮して、濃い目の影を入れる。生地に厚みがあるのと、ウエストに締め付けの力がかかっているので、力の流れや強さを考慮してシワを走らせる。





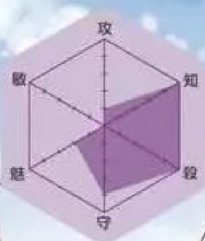


鞄にも革素材のような濃淡を入れ、質感を出す。このとき、画面に向けられる読者の視線を女の子の上半身に集中させるために、きらびやかなものにせず同系色の影のような色合いに収める。

完成



敏捷性皆無の鉄壁スタイル。複雑さが群を抜く、初見絶対殺すファッション。黒を基調とした知力の高さはさておき、プチハットの重さなどが加わり、ゴシック＆ロリータ一歩手前で着る側としてもかなりハードルが高い。



No.03

ゴスロリ系フル装備編

黒が大部分を締めるゴスロリ系を、女の子の可愛さ・華やかさに当てはめるにはどういう方向性で進めればいいのか。その一例をここから解説していく。

ラフ&線画

デートの途中、女の子が転んでしまったシーン。ラフの時点でほぼ完成に近いイメージを作り、細部の微調整はあるものの、大幅な変更はない。



色置き+肌、髪、目塗り込み

色を置いたあと、先に目と肌、髪を塗る。黒い布地は影を付けることを考慮して、彩度を抑えた紫を選択。髪の色合いや目の色も統一しているので、全体がまとまりやすい。



コルセットとオーバーニーソックスは同じRGB値のバランスの、より明度を落とした色で濃淡を作る。単調にならず、目立たせたい部分がはっきりする

塗り方を統一してブランド感を出す

「童貞を殺す服」と呼ばれるような服装は、全身を使った世界観の表現を意識している傾向があるので、布の材質や形状までこだわり抜かれている。今回であればケープとオーバースカート、ティアードジャンパースカート、プチハットまで同じ布を使っていると想定し、塗り方を統一する。こうすることでブランド感が出る。





プチハットに使うには服の生地だと柔らかすぎるのでは、と考えるかもしれないが、帽子にも表地と裏地がある。裏地に強度のある布を使って熱処理を加えるなど、形状を保持する方法はいくらでもあるのだ

スカートとケープは布が同じでも、丈と力のかかり具合が違うので、シワの流れる方向や量に変化がある。ケープには重力と風の力が、スカートには地面に落ちた際の重力と圧縮ジワが形成されている

ブラウス、フリルはシルキーに

高いブランドだとブラウスがシルク製の場合もある。シルクといえば白練（しろねり）という色の名前にもなる通り、薄く黄色がかっている（変色した黄変ではない）。光沢もあるので、色を濃くして影を表現する。





彩度の下げ幅は小さく、色を濃くする。影の光沢、特に布が曲がっていたりシワが入る部分には補色の青、紫系を入れるとよりつややかに見える

細部は存在を主張させすぎない

ゴスロリ系には金属部品も使われる。あくまでワンポイントなので、反射をきつくしたりするとそちらに目が集中してしまう。描き込みは手を抜かず、質感を出すだけにとどめる。





基調の色の周りに濃い影を配置して、その上にスクリーンや発光レイヤーで光沢を入れる。最後に周りの布を反射した光でぼかす。どの効果も、強めるとかなり主張するので注意





ハンドバッグのフリルの色が違うのも、キャラに目が行くようにするため。画面端に寒色を配して、一角に温度差を作っている

完成



パフスリーブのシースルーブラウスに見せキャミソールを組み合わせ、本書中最高の攻撃力を叩き出す。カジュアルに童貞を殺すため、配色も彩度高め。クラシック系が剣、ロリータ系が鈍器ならば、こちらは銃器といったところ。



No.04

清楚系カジュアル／ガーリー編

「童貞を殺す服」の条件を満たしつつ、カジュアルという異色な雰囲気を纏っているこの組み合わせ。ラフではなく、あくまでカジュアルに見せるにはどこを押さえればいいのか、その秘密に迫ってみよう。

ラフ&線画

女の子が気になっていたカフェに連れて来られる、というシチュエーション。ほとんど完成の構図が見えており、目指す方向性が決まっていることが窺える。線画もほぼそのままだ。



色置き～身体

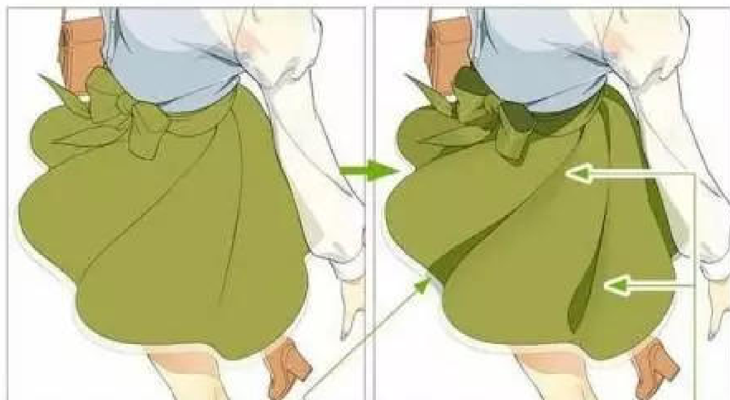
シースルー生地となるブラウスは不透明度を 75% 前後に落とし、ほんのり透けている状態にとどめる。



シースルー生地



スカートのカジュアルな見せ方



スカートの裾にあるレース部分にも影を延長するが、段差の分だけズレる

実線で表現したシワの周囲には波ができている。濃い影と薄い影、さらに柔らかいハイライトで緩急を付ける



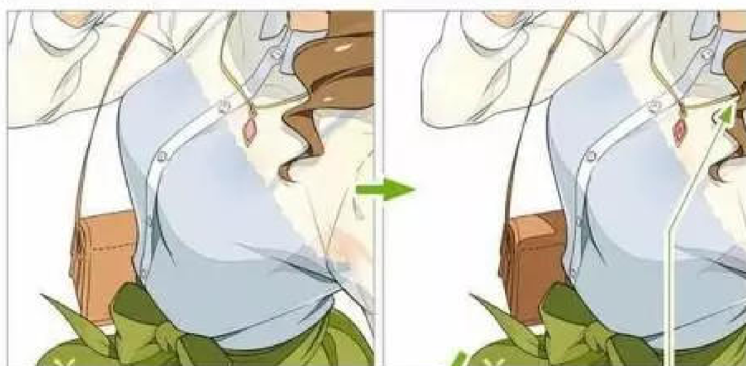


P.04と同じく、脚に残光を入れる。生足のまぶしさが攻撃力を高める

花柄はリアルなものではなくデザイン的なもの。コピーしてスカートの形状に合わせて等間隔に散らし、1つずつ向きと圧縮率を調整する

調整レイヤーの色相・彩度でイエローに近づけ、より明るい彩度に調整

ポシェット、ペンダント



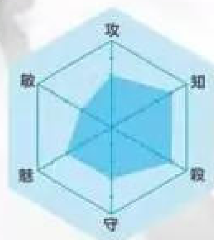
ポシェットにスカートから反射した光が当たって緑がかる。影で沈みにくく、女の子が輝いているような印象にもなるので効果的

振り向きざまの躍動感でペンダントが跳ねているので、影の入る位置が髪に準拠している

完成



童貞を殺す服の定番の1つ、胸開きジャンパースカート。胸を強調している分攻撃力が若干高く、敏捷性は低いものの装飾次第で魅力と知力をバランスよく向上させることができる。殺傷力も高いので、対処する際は慎重を要する。



No.05

胸開きジャンパースカート編

シックな色使いでフォーマルさを演出し、過度の色気を抑制する。寝ている状態は重力や環境光の影響が立位姿勢と違うことを意識しよう。

ラフ&線画

デートから彼氏の部屋に戻り、疲れた女の子がベッドに直行して寝転がったシチュエーション。当初はデート中の寝具売り場の場面を想定していたが、画面をすっきりさせることと自然な状況設定の伝えやすさを重視して線画の段階で変更。





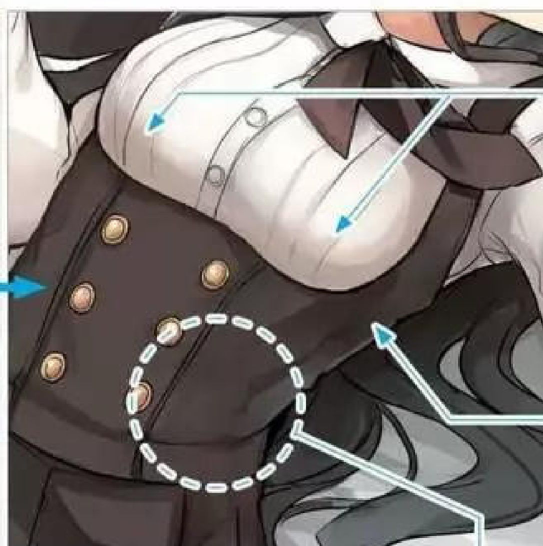
色置き

最初の段階で全体の雰囲気を把握するべく、色置きに加え仕上がりを想定して色に変化を付ける。



胴回り





立体感を出すために影を付ける。光源が上からなので、不自然にならないよう考慮しつつ、うまく嘘をつく

乳房の影と、乳房を支える圧が重なっているため、濃い目の影で布の変化を表現

薄手の生地の場合、スカート部分の接合部が浮き出やすいため、少し上に凹んだような影を入れて段差を作るとよい

シーツの光が反射した環境光。光沢のない生地を想定する場合は強めに入れると不自然になるので、生地の色から大きく離れないものにする

寝転がると脇腹が沈んで腹筋回りが相対的に盛り上がるため、立体感が必要になる。さらに左脇腹側を圧縮するように微妙な弧を描いているので、強めのグラデーションをかけている

⧓腕の修正







無理な力がかかっているように見えるので修正。元の腕を消したあと、自然な位置にラフで描き込む。

肘の位置を胴とベッドの高低差に無理がない位置へ。前腕はカメラに対し奥行を持っている。

本作は厚塗りの手法で描いているので、腕を消した部分の塗り直しは別レイヤーから上書きする。

⧓環境光





寝転がっている場合は身体の真上または斜め上から光が降っている。落ちてきた光はシーツで拡散し、身体の左右に反射光によるハイライトが入る。これが環境光だ。この現象は屋内、屋外問わず発生し、床や壁以外に服や小物から生じる反射光も環境光と同じ原理である。

⧓鞄





⧓完成



第1章

打ち破り難き壁（トップス）

見るのも描くのも楽しいトップス。なぜこんなに男性を魅了するのだろうか？　それはずばり、バストがあるから！　この章では、女性用トップスを描く上での基本的な注意点や予備知識を交えて解説していく。







Lesson01

童貞の夢が詰まったブラウス

ブラウスとは本来男性の衣服であった。それを女性が着ることで力強さを得て、守備力の高い雰囲気に結びつくものと思われる。まずは「童貞を殺す服」に代表されるブラウスの種類と構造から把握しよう。

特殊なブラウス一覧 ※一部のみ紹介

クラシカルブラウス

フリルやプリーツを多用した「クラシカルな見た目」のブラウス。近世ヨーロッパ風のブラウスを総称する意味もある。



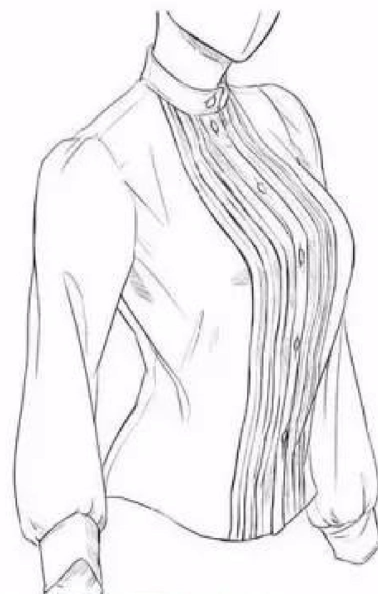
ヴィクトリアブラウス

ヴィクトリアンレースを装飾に使用した、華美なブラウス。レースの美しさを損なわないために背面ボタンの場合もある。









フリルブラウス

フリルで装飾されたブラウス。肩にフリルを使用したカジュアルなものも指す場合がある。

ハビットシャツ

乗馬用に使用したシャツ（ブラウス）。ジャケットのネックラインから装飾が見えるよう考慮されている。

キャバリアブラウス

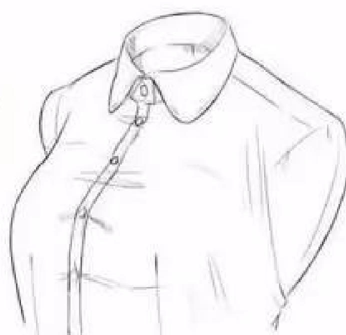
近世騎士階級の者が着用した服を、現代的にアレンジした服。装飾はレースやプリーツなどシンプル。

ブラウス各部形状の種類 ※一部のみ紹介

襟

ラウンドカラー

その名の通り、先を丸くした襟。女性らしさやエレガントさを強調する場合に使われる。



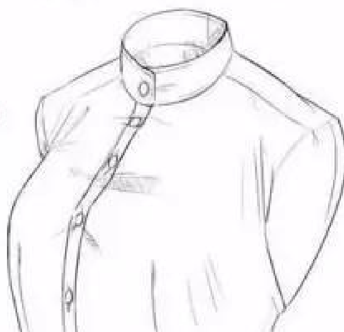


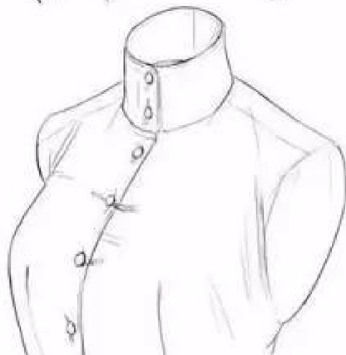
ジャボカラー

ジャボとは襟の間から首元を隠しているひだ状の装飾のこと。現在のネクタイに相当する。

スタンドカラー

折り返した部分のない、立っている襟を総称する。原型は中世から存在する。





チンカラー

チン（顎）を覆うほど高い襟。レースで装飾したものもあり、防寒性能の他、首を細く見せる効果もある。

袖





ペザントスリーブ

西欧の伝統的な農民（ペザント）の服に由来。長さ以外はパフ、バルーンと製法はあまり変わらない。



エンジェルスリーブ

ギャザー（ひだ）を作り、広がるように作られた袖。絵画の天使の衣服に見られた形状を由来としている。

バルーンスリーブ

パフスリーブの一種で、通常よりたっぷりと布を使用し、風船のように膨らませた形状の袖。

袖口



ラウンドカフス

角を丸くした袖口。ラウンドカラーと同様、柔らかい印象を与える。

リボンカフス

ボタンではなくリボンで絞る袖口。リボンを装飾に使ったものは別。



ボタンドカフス

ボタンを並べるように配置して装飾した袖口。ボタンも凝ったものがある。

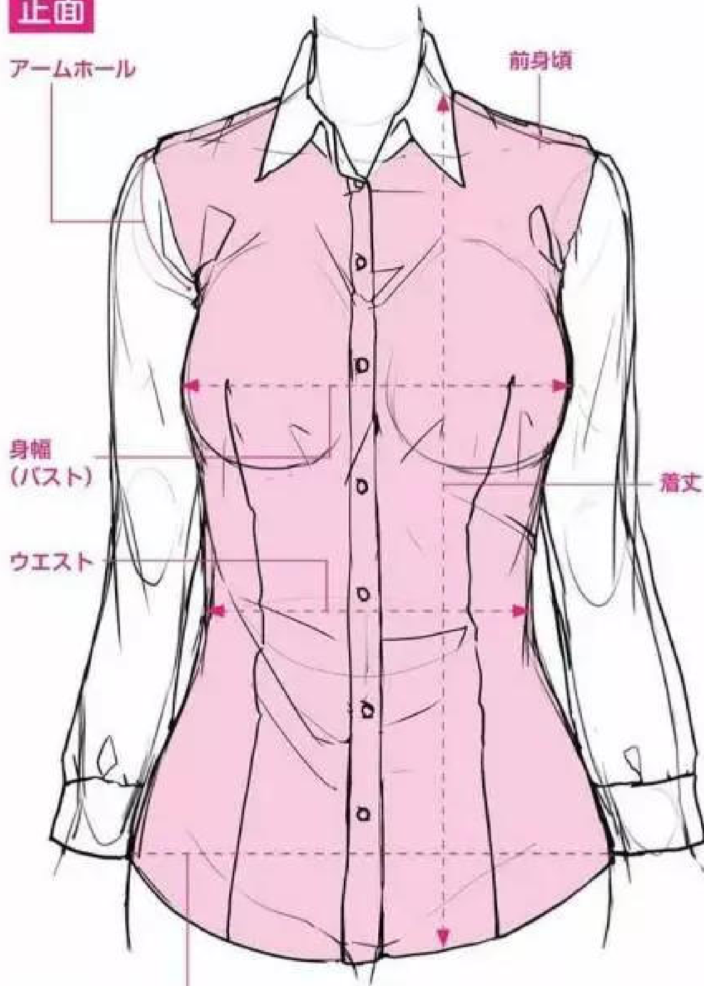
ラッフルカフス

ギャザーで作った装飾を施した袖口の総称。

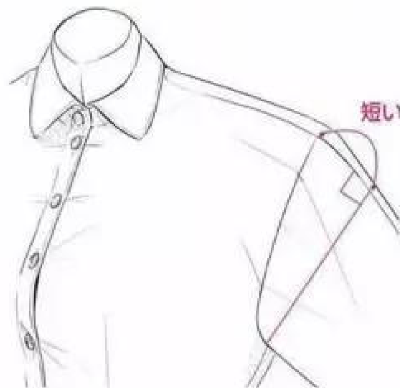
ブラウスの構造

ブラウスは複数のパーツを組み合わせて作られている。各部の名称と、主に服選びの際によく使われる寸法を測る部分を一部解説する。

正面

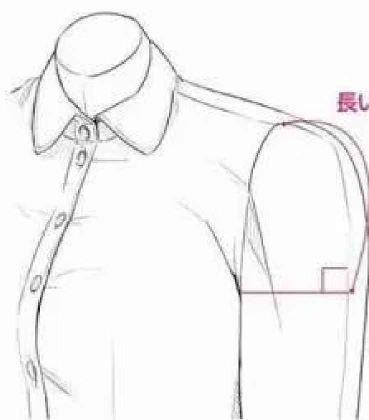


シャツスリーブ



ワイシャツや学生服によく使われる、動きやすさを重視した形状。袖山が低い（＝短い）

セットインスリーブ



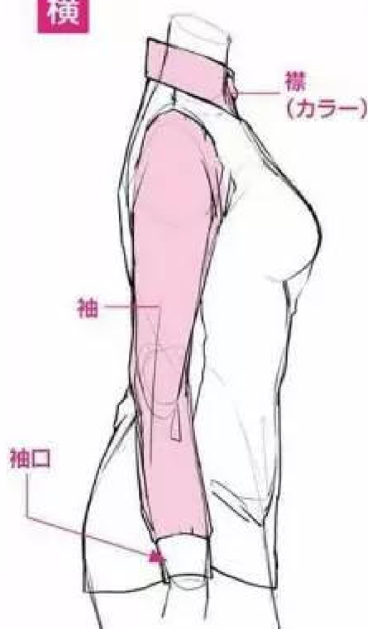
普通袖と呼ばれる。スーツやフォーマルなジャケットなどに使われる。袖山が高い（長い）

大きな動き・激しい動きを想定しておらず、平常時の着心地を重視している

背面



横



内側

縫目は裏表に入り、目立ってしまうものは裏にするのが一般的



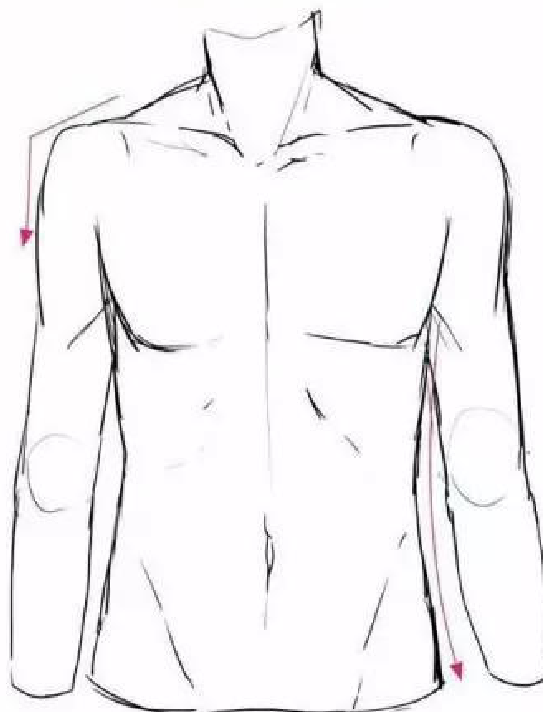
立体裁断

立体裁断とは、身体の凹凸に合わせて布を裁断してパターン化・つなぎ合わせて服を作ること。対義語は平面裁断。女性用のブラウスは立体裁断であることが多く、男性と比較すると身体に丸みを帯び、凸凹しているのがその理由だ。



矢印の位置が身体の凹凸を示す。伸縮性のある生地やカジュアルな服であれば平面裁断でも問題ないが、ブラウスに使われる生地はあまり伸縮性がないため、着くずれする（くたびれる）のが早くなる

男性の身体



男性の身体は凹凸が少なく、角ばっていることから平面裁断で問題ない。ただしオーダーメイドとなると、女性同様かそれ以上に細かく採寸し、身体にぴったり合わせる立体裁断を行う



殺されないためのメモ

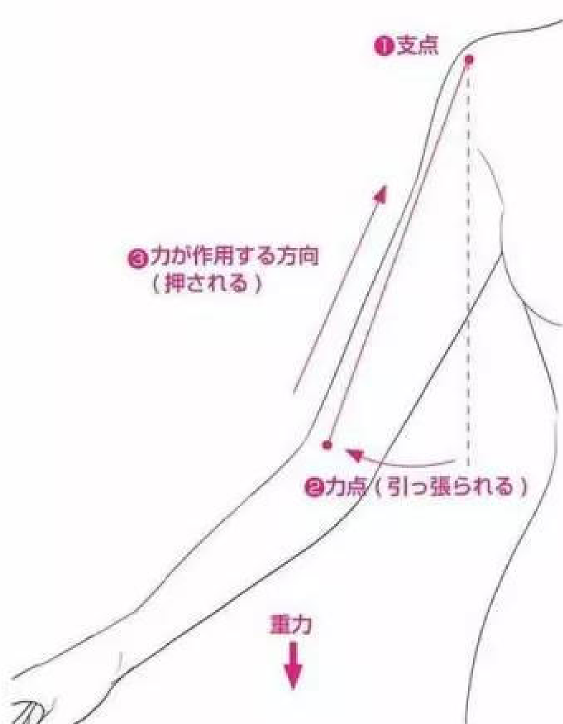
「童貞を殺す服」に見られるブラウスは立体裁断で製作されていることが多い。メリットは身体のラインがすっきりして見える点、着くずれを起こしにくい点など。デメリットは総じて高価である点、立体感を維持するために洗濯時はデリケートに扱わなければならない点など。価格が万単位のものもざらにあるので、男性諸氏も大事に扱ってあげよう。

ブラウスの描き方ポイント：肩口〜袖

服を描く上で切っても切れない関節の動き。まずは腕のパーツ一部分だけを切り取って単純化し、いかに応用につなげるかの考え方を紹介していく。

袖の形状と腕の動きの相関と考え方

関節の動きと布のシワの形成は、てこの原理と同じ。関節が支点で動く先が力点、肉体に押し込まれて(同時に引っかかって)生じるシワが作用点とそれぞれ関連付けられる。これは身体すべてに当てはまることなので、関節の動く方向と重力を常に意識しよう。



セットインスリーブ



ペザントスリーブ



バルーンスリーブ+リストフォール



肩・袖の動きの応用

腕を動かせば袖が動き、袖が動くと付け根の肩口も変形する。引っ張り方向と圧縮方向のシワを理解したところで、腕全体を動かした際にどこが連動するのか、どんな見え方をするのかを、スタンダードなセットインスリーブで見ていこう。

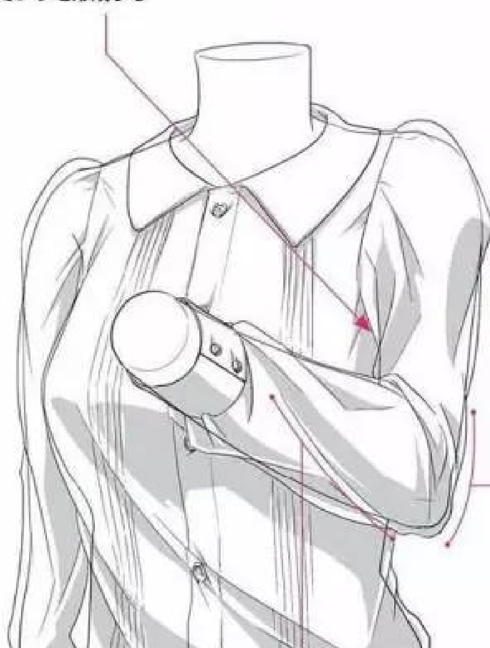
自然体



腕を上げる



手だけ前に出す



後ろに引く



真横に出す



脇の下から引っ張られるシワ。肘の上が力点

脇が引っ張られることにより、反対側にもボディラインに沿ったシワが形成される

斜め後ろに引く

肩甲骨がある位置。肩を前に動かすとここが盛り上がるので注意

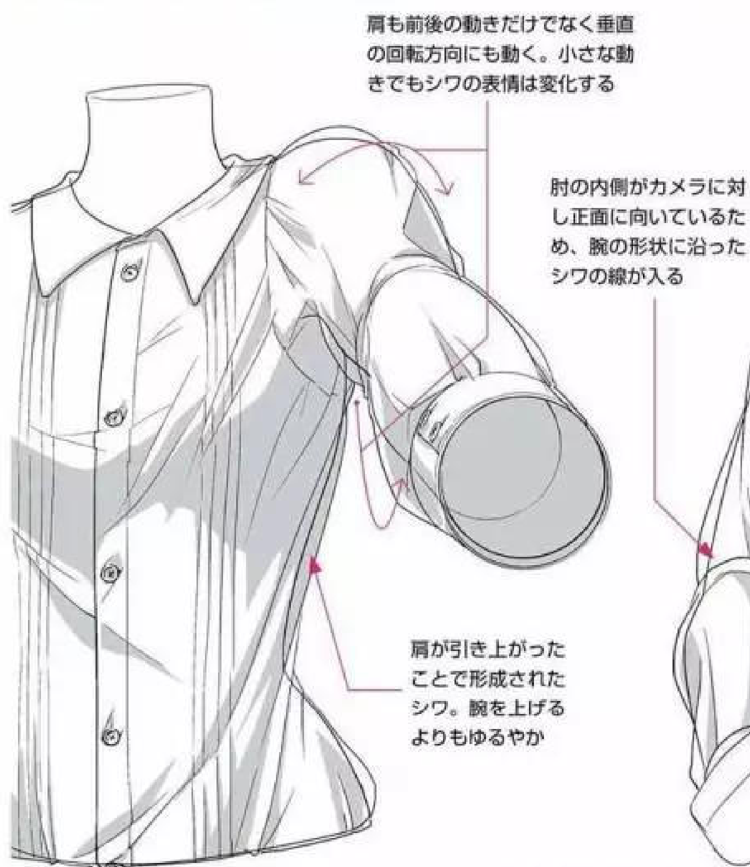
腕の外側を引っ張ったことで、胸まで布に張力が加わる



肘の回転に合わせるようにねじれてできたシワ。支点は脇の下

カメラに向けて伸ばす

肩も前後の動きだけでなく垂直の回転方向にも動く。小さな動きでもシワの表情は変化する



肩が引き上がったことで形成されたシワ。腕を上げるよりもゆるやか

お腹の前で手を絡める

肘の内側がカメラに対し正面に向いているため、腕の形状に沿ったシワの線が入る



肘の曲げと手首の回転でできたシワ。肩の回転と違い、骨が交差することで大きくねじれる

腕組み

腕に支えられてバストのシルエットが変化する。脇からのラインが浮いているのはブラによるもの



前項「手を絡める」より強い曲げと回転の力が加わったシワ。肘（支点）から手首（力点）への流れを意識する

両腕でバンザイ

肩のシワは曲げシワだが、肘の内側にできているシワは重力によるたるみが大きく影響している



P.23「腕を上げる」と違い、肘先が身体の外を向いているため、より直線に近い引っ張りジワができている

照れる女の子



肩が吊り上がっているが、関節自体が動いているわけではないのでシワは形成されない

手を口元に持っていくために肘が前に出ているので、肩にも動きがある

手首に回転が加わっていないので、肘から手首外側にかけてまっすぐシワが走る

Lesson03

ブラウスの描き方ポイント：袖～胴

袖だけで布が連動していることを理解したところで、次は胴の部分。肩が力点になりやすく、作用点は広範囲に、さらに身体の凹凸も加わり服の形状変化は複雑になる。１つずつ説明していこう。

バストサイズとウエストの位置

見れば一目でおわかりかと思うが、バストサイズとウエスト位置の組み合わせはシルエットに明確な差が出る。バストが控えめだと段差が緩やかに、豊満だと影やシワは濃淡が強くなる。つまり、胸と胴は一続きに考えるのがポイントだ。

ジャストウエスト（バスト控えめ）





ハイウエスト（バスト控えめ）





POINT なぜハイウエストが男性にウケるのか

採寸位置的な意味での「ウエスト」とは胴の一番細い部分だが、衣服のパーツ的な意味ではスカートやパンツの腰回りで保持する部分のこと。ジャストウエストは腰上で保持し、ハイウエストはアバラ～ウエストあたりのラインで保持する。

なぜハイウエストが可愛く見えるかというと、女児服や幼児服らしいシルエットであるからだ。幼児体型はウエストにくびれがないために保持が難しく、胸の下あたりで保持する必要がある。その雰囲気を持つため、外見から幼さを感じるのである。幼さを感じる＝保護欲を刺激されるという図式が成り立つので、ハイウエストは守備力が高いといえる。

ちなみにハイウエストスカートは昨今人気になったわけではない。少なくとも2000年代中盤にもブームがあり、今は「童貞を殺す服」に代表されるジャンルでも定番となって、恒常的な選択肢の1つとなっているのだ。

ジャストウエスト（バストたっぷり）





体格以上に大きなバストは鎖骨周辺の布が引っかかり、脇あたりでシワになる

バストとウエストの落差がある上、ジャストウエスト位置ではお腹回りの布に余裕ができて、締めると強いシワになる

ハイウエスト（バストたっぷり）





バストの上下で締まって余裕がなくなるため、より強調するような雰囲気になる

いわゆる乳袋を形成しやすい状態。バスト下にシワが寄りやすく、ブラの形状が浮き出ると袋状に見える

肩から胴にかけての動きとウエスト位置の違い

胸の大きさとウエスト位置の組み合わせによるシルエットの違いを把握したところで、肩から胴にかけての動きを見てみよう。単純化するため、前腕の袖は省略している。

横に倒す



乳房の自重によるシワ。大きいバストは肩と乳房の間に空間があるためシワが形成される

乳房ではなくブラの動きに追従している。片側が下がると反対側は横方向に引っ張られるので、斜めにシワが走る



ウエスト付近に余らせた布が層を作る。肘と同じで、内側を中心に放射状に線が伸びる



シャツアウトは縦方向のテンションがかかっていないので、横方向のシワが目立つ

ひねる



布にかかった張力が分割された前身頃で一度ボタンに集中し、シワができる

袖・肩口の項目で解説したときと違い、支点はウエスト、力点は肩先でできたひねりジワ



腰と背中が弧を描いてできたシワの層。上は脇からの引っ張りジワ



スカートとブラウスが摩擦して緩く引っ張りジワができる

胸を張る



肩が上がっていないため、バストトップ位置が変わらずやや平たくつぶれた印象に
身体の動きに追従して曲げシワができているのはウエストの折れのみ



ジャストウエストではバストサイズによって下腹部からの角度が変わる



支点がバストトップ、力点が腰骨の背中のシワ。回り込むように走る

背を丸める



ハイウエストで胴が引き締まり、背中と脇腹が保持されてバストを吊り下げるようにテンションがかかっている
疑似乳袋が形成された状態。男性の理想郷の1つ



胴回りに余裕があるので、その布がたるんで層を作る



重力で布が逃げる余地があるため、ジャストウエストと同様に首回りに強いテンションがかからない

Lesson04

ブラウスを着る

発表されている漫画やイラストを見ていると、脱がせるより着せる場面の方が圧倒的に少ないのではないだろうか。脱がせる前にまず着るところから、要点を押さえていれば脱がせるシーンも違和感なく描けるはずだ。

男女間で違いのない動作

たかがブラウス、されどブラウス。男性諸氏も自分が着る姿を全身鏡でまじまじと観察することは少ないだろう。動作に概ね違いはないが、改めて手順を追っていこう。

1. 袖に腕を通す

着ている最中は肘関節と折れシワの位置が一致しない。布の量が均一ではなく、重力の影響を受けるからだ



だらりと垂れる反対側。肩幅、袖の長さ、身頃の長さを考慮し、不自然にならないよう注意

2. 前身頃を手繰る

内側に見えるアームホールなどの構造も描き込む。握りシワや身頃のラインが見えるのも良い



手繰る手順でアームホールに手、腕を突っ込む場合もある。体が柔らかいとできる動作だ

3. もう片方の袖に腕を通す

腕が入っていない部分、手首の甲側で袖の内側から押しているので、その先は重力で垂れる

身頃を引っ張る手で肩の位置も調節する。横ではなく正面方向にも力をかけている



スリーブの形状によって引っ張られ方やシワに違いがあることも忘れずに

4. ボタンを留める



長髪の場合、羽織ったあとに首から髪を引き出す。男性が魅力を感じる動作の1つ(編集部調べ)

常識であるが、ボタンとボタンホールの位置は男女で左右が逆な点に注意

5. 袖のボタンを留める



ブラウスを着なれていない場合、袖のボタンに目をやることも。キャラクターに応じて表現に変化を付けよう

手の高さが違うので肘の位置も違う。細かい部分を見落とさないように

殺されないためのメモ

ブラウスがデリケートで高価だというのはすでにP.21のメモでも述べた通りだが、服は思っている以上にストレスに弱く、破損させると修復不可能な場合もある。ボタンが取れた程度でも縫い付ける布地にダメージが入るし、乱暴に扱うと最悪ほつれたり破れる可能性だってある。そうなれば、童貞をさらしてしまうどころの失態ではなく、著しく心証を損なってしまう。描くときも現実で扱うときも、十分に注意してほしい。



▶**ハイウエストスカート**の穿き方は **P.48** へ
▶**チュールスカート**の穿き方は **P.53** へ
▶**ジャンパースカート**の穿き方は **P.71** へ

ステータスを底上げするアウター

物理的にもステータス的にも守備力を高めるアウター。しかし守備力だけでなく、デザインやシルエットで魅力や知力まで底上げできる。ここでは「童貞を殺す服」に親和性の高いアウターを一部ご紹介しよう。

特殊なアウター一覧

ケープ

肩から腕あたりまでをカバーする、袖のないアウター。敏捷性は下がるが、ガーリーなデザインにより魅力が高くなる。



ボタンは一番上だけだったり裾にフリルが付いていたり、バリエーションが非常に豊富

ケープコート

ケープとロングコートが組み合わさったアウター。敏捷性はほぼゼロに落ちるが、魅力をカンストできる。



襟、ケープ、コートはそれぞれ分離可能な場合がある

ファーやフリルで装飾されていることが多い

クローク

ケープよりも丈が長いものを指す。マントと近似であり、違いは全面を覆う部分の形状や留め具の有無など。



ケープとは丈の長さ以外に違いはない。膝から足首あたりまですっぽり覆う

トッパーコート（ショートジャケット）

通常のジャケットと違い、丈がかなり短い。ハイウエストスカートとの親和性が高い。



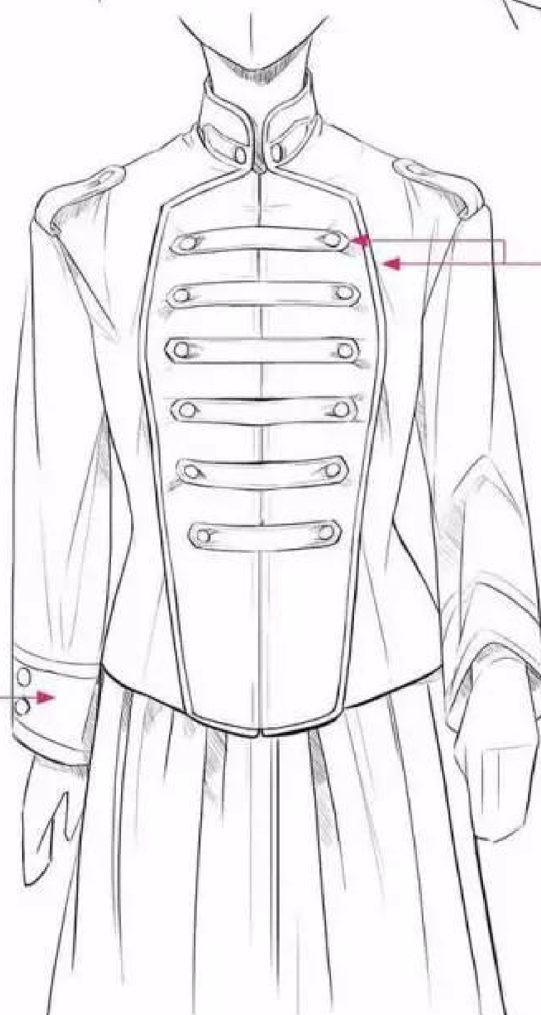
セーラージャケット

名前通り、セーラーカラーで装飾したジャケット。学生服にも見られる。



ナポレオンジャケット

ナポレオン・ボナパルトが着用した軍服をモチーフにしたジャケット。元が軍服なので、ストイックでボーイッシュな雰囲気が女性の魅力を高めてくれる。



Lesson07

ケープ、クロークの描き方ポイント

単純な構造と思われるかもしれないが、実は身頃のように複数の布を組み合わせて作られるケープ&コート。あまりなじみのないシルエットではあるが、力のかかり方を把握していれば何も難しいことはない。

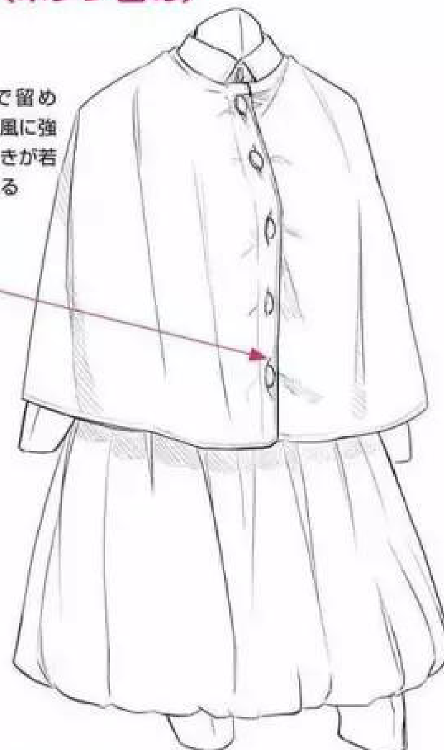
構造と丈の長さで機能を把握する

羽織るという点においては非常に単純だが、身体にフィットさせるとなるといくつか注意点がある。殺傷力の低い装備なので、落ち着いて対処しよう。

構造



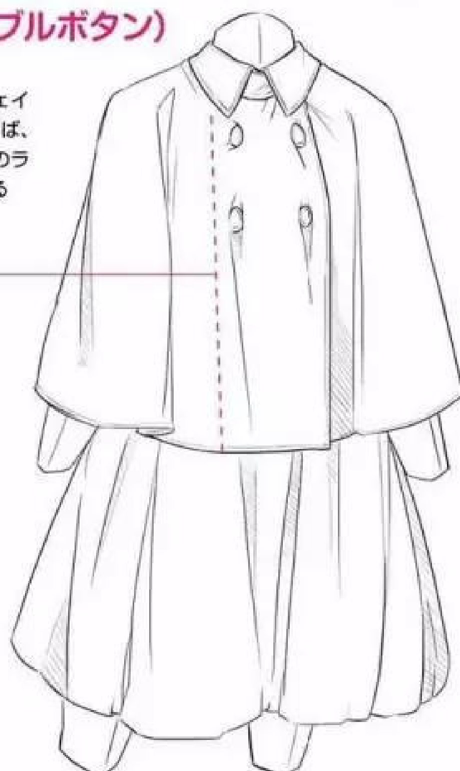
ケープ（ボタン留め）



クローク



ケープ（ダブルボタン）



ケープ・クローク着用時の動き

袖に腕を通しているわけではないので、動きに対する変化は単純明快。形状としてはスカートに近いので、後述のスカートの章を参考にするのも良い。

腕を上げる



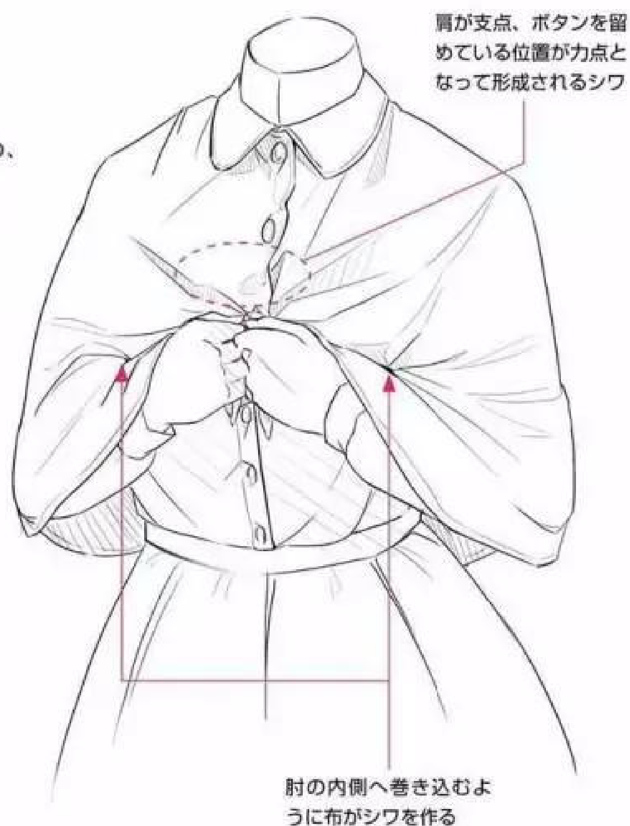
振り返る



腕を曲げる



ボタンを留める



ジャケット、コートの描き方ポイント

ジャケット、コートを着るのは男性も同じ。では、女性が着て動く場合何が違うのかというと、立体裁断と布の厚みを考慮するだけである。つまりこれまでの応用にすぎない。

ブラウスとの違いを理解する

ジャケットはセットインスリーブであると P.20 で述べたが、コートも同じ。厚みのある外衣を着て激しい運動をすることは、状況的にも想定されていないからだ。着丈の長短でどのような変化があるかを解説していく。

腕を曲げる（ショートジャケット）



背を曲げる（ショートジャケット）



脱ぐ（コート）



両手を口へ（ロングコート）



ひねる（コート）



ジャケット、コート着用時の動き

動きが制限されるので、必然的に大きな動きを取りにくい。限定的な動きの中で、服に大きな表情が出るものを取り上げてみた。

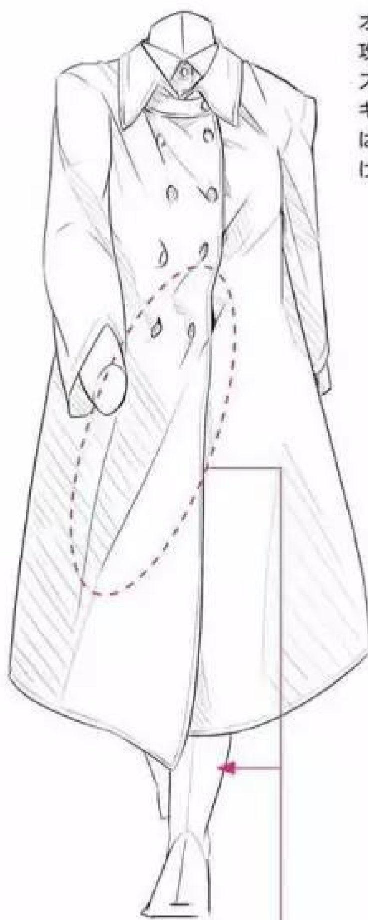
自分の身を抱き締める（ショートジャケット）



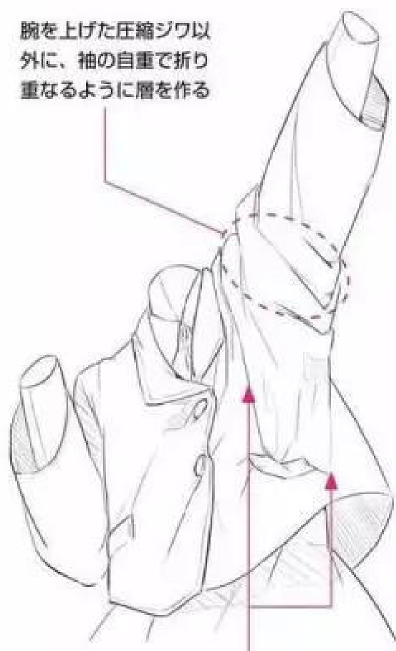
しゃがむ（コート）



歩く（ロングコート）



片腕を上げる（ショートジャケット）



ショートジャケット着用



COLUMN-01

衣服に対する男女の意識の違い

■機能性と装飾性

一般論として、衣服に対して男性は機能性や合理性を重視し、女性は装飾性やシルエットを重視する。現在流通している洋服は極限まで機能性を追求した形態といっても過言ではなく、おそらく相当な技術革新や製造技術が確立されない限り、大きく変化することはないと思われる。もちろん流行によってタイトになったりルーズになったりと微妙な変化はあるが、それももう数年単位で繰り返していることだ。

機能性を追求した服が巷に並ぶ中で、女性の衣服は男性から見るといささか奇異なものも存在する。右図のような肩出しスタイルが代表的な例で、男性にとっては「なぜそこを切り欠いた？」と合理性に欠ける形状が疑問なのだ。

しかし、こればかりは感覚の違いとしか言いようがなく、女性的にはこれが「可愛い」のだ。スカートが機能的に（盗撮の危険性がある、風に舞って露出してしまう、外気にさらされやすいなど）合理的ではないのに、いまだ着用されるのは感覚によるところが大きい。

■保護欲と性的魅力の二律背反

男性の悲しい性で、ミニスカートが好き・胸の谷間が覗くスタイルも好きというのは当たり前のことだが、こと身内の話になると手のひらを返して「ふしだら」「つつしみがない」と難色を示しがちである。勝手な話だが、他人であればセクシーさやエロさを全開にしてもらいたい、しかし身内（ひいては交際相手や配偶者）の素肌は他の男に見られたくないというのが男性の一般的な感覚であろう。

このあたりの独占欲は「童貞を殺す服」に通じるものがあって、すなわち清楚＝自分に一途であってほしいという思考の表れなのだ。つまり（女性諸氏には気持ち悪いと思われるかもしれないが）清楚な女性と見るや、お嫁さんにしたいという欲求が働くのである。

もちろん、生理的な欲求なので、男性に好意を持つのはやめろというのはどだい無理な話である。しかし、男性諸君も「童貞を殺す服」を着る女性が男性の保護欲をあおっているわけでは決してないということもわきまえてほしい。



第2章

魅惑の甘い罠（スカート）

ヒップラインや脚線美を覆い隠し、ブラックボックス化してしまう衣料・スカート。隠せば隠すほど、守備を固めれば固めるほど謎が魅力を強めるのだ。この中には一体何が隠されているのか、ここから紐解いていく。







童貞の憧れを包むスカート

スカートはブラウスと違いいろんな形状があって、どれが何なのかよくわからない。ここからは「童貞を殺す服」に使われるスカートと構造、メジャーなハイウエストスカート、チュールスカートについて解説していく。

守備力の高いスカート一覧 ※一部のみ紹介

ハイウエスト・フレアスカート

その名の通り「ハイウエスト」な「フレアスカート」。右図は※パニエを中に穿いている状態。

※チュールレースを重ねた、チュールスカートやティアードスカート状の小ぶりなアンダースカート。スカートの下に穿くことで、スカートのシルエットを膨らませる効果もある



チュールスカート

チュールレースを使用したスカート。チュールレースを重ねたものや普通のスカートに被せたものなどがある。ふわっとして透け感がある。



ラッフルスカート

大きめのギャザーを装飾として施した、フリルスカートの一種。パンクファッションにもよく使われる。



トランペットスカート

上にタイトスカート、下にフラウンス（大きなフリルのこと）を組み合わせたスカート。



ティアードスカート

ギャザーやフラウンスを段階的に重ねて縫い合わせたスカート。スカートにフリルを装飾したものは別。



スカート保持部品の種類 ※一部のみ紹介

ゴム

平ゴムを内蔵して締めるタイプ。ウエストの一部にのみ使用している場合もある。



ホック（＋ファスナー）

学生服やフォーマルウェアなどに使われることが多い。別途ベルトやゴムで締める場合もある。



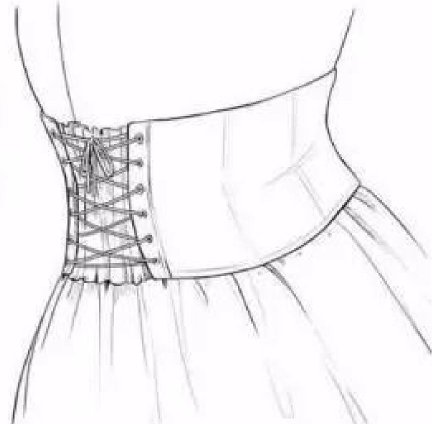
ファスナー

重複する部分がないのですっきりするが、ファスナーが下りやすいのが難点。こちらも別途ベルトなどで締める。



コルセット

ウエストラインを細く見せるためのアクセサリーだが、これでスカートを保持する場合もある。



リボン

ベルトの代わりにリボンで締める。スカートのウエスト自体がリボンになっているものもある。



サスペンダー

先端に金具が付いた平ゴムでウエストを吊る部品。スカートと同じ生地の帯が付いているサスペンダー付きスカートもある。



ベルト

少しハードな印象を与えてしまうが、ベルトも選択肢の1つ。女性用は細いものが多い。



Lesson02

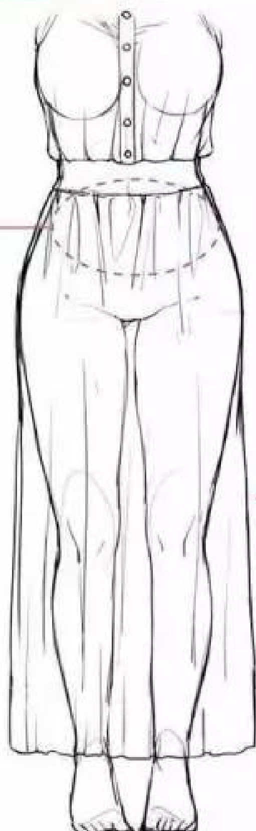
伝家の宝刀ハイウエストスカート

P.27でも述べた通り、幼さを感じさせ、同時に清楚さを持ち合わせていることが重要なハイウエストスカート。ブラウスの胴の項目で少し触れたが、ここで改めて身体との位置関係や構造について解説していく。

ハイウエスト・フレアスカートの構造

ハイウエストは腰より上を絞ってヒップラインを隠す。つまり、脚を非常に長く錯覚させるメリットも持ち合わせているのだ。では、身体のアタリ付きフレアスカートでその中身を詳しく検証していこう。

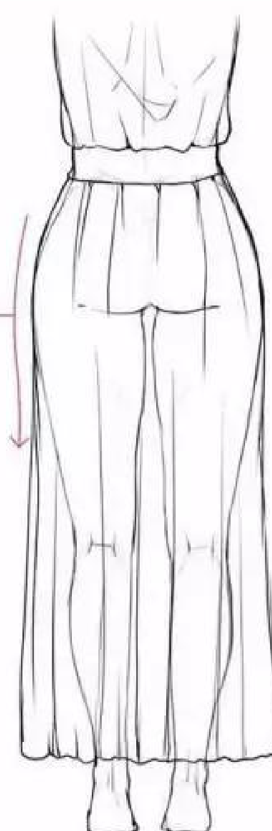
フルレングス丈・正面



布の総量が増えて重くなるので、ウエストにかかる張力も強くなり、シワが深くなる

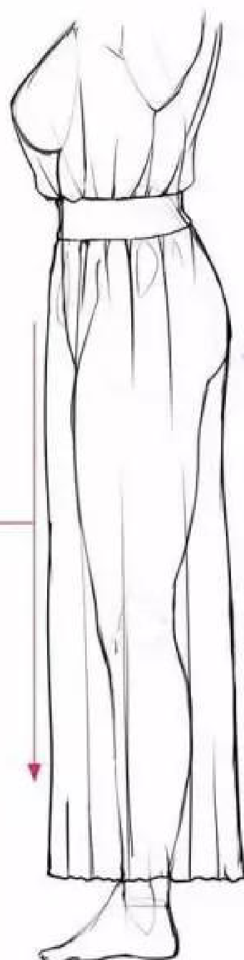
ギャザーも自重に負けるのですぼまりやすく、パニエを穿かない限り広がらない

背面



ヒップから落ちて、一旦すぼまってできるライン

横



姿勢がいいと、ウエストから足首までほぼ一直線に落ちる

ヒップラインにまとわりつくように沿ったあと、サイドと同じように一度すぼまる

ハイウエスト・フレアスカート（ミディ丈）着用



パニエを中に穿くことで、ヒップラインを隠すことができる。この図くらいだと、パニエを2枚穿きしている場合も

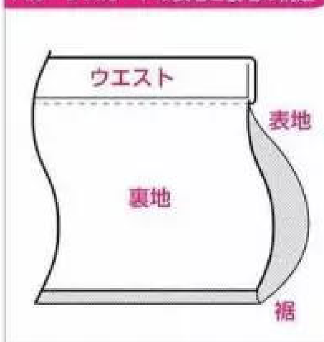
ハイウエスト・バルーンスカートの構造

「童貞を殺す服」を広く認知させるに至った例のハイウエストスカートは、バルーンスカートという代物。スカートは表地と裏地を張り合わせるように作るが、バルーンスカートは裏地が表地より短いために表地を巻き込むような恰好になっている。

ハイウエスト・バルーンスカート

表地と裏地の間の空間がだぶつきを作り、ギャザー（ウエストから裾へ縦に入る線）を直線的ではないものにしている。右図はパニエを着用した状態を想定。

バルーンスカートの表地と裏地の構造





表地を巻き込んでいるので裾は厚くなり、縫目は内側へずれる。シルエットの柔らかさの秘密はここにある

普通のハイウエスト・フレアスカート

表地を巻き込んでいない普通のスカートは、先端が角ばっているのが確認できる。また、ギャザーの線が直線的な点にも注目。右図はパニエを着用した状態を想定。





表地と裏地の縫目が、裾の折れ目に平行に走る。厚みは生地と縫い合わせ分だけなので薄い

タックについての基礎知識

布を小さく折り畳み、シルエットを絞る手法の1つ。布を裁断し直さずに済む、縫う範囲を少なくできるといったメリットがあり、これが装飾として利用されることがある。

タックスカート

Ωのような形に布を寄せ、折った両側にタック処理を施している。規則的なギャザーが作られやすい。



Ωに折り込んだ片方の拡大。畳んで重なった部分に折り目を付けることで、穿いたときにギャザーの根本になる



タック多め（パニエなし）

タックを増やせば増やすほど、ギャザーの数も増える。均等な波がこのスカートの魅力だ。



プリーツスカート（パニエなし）

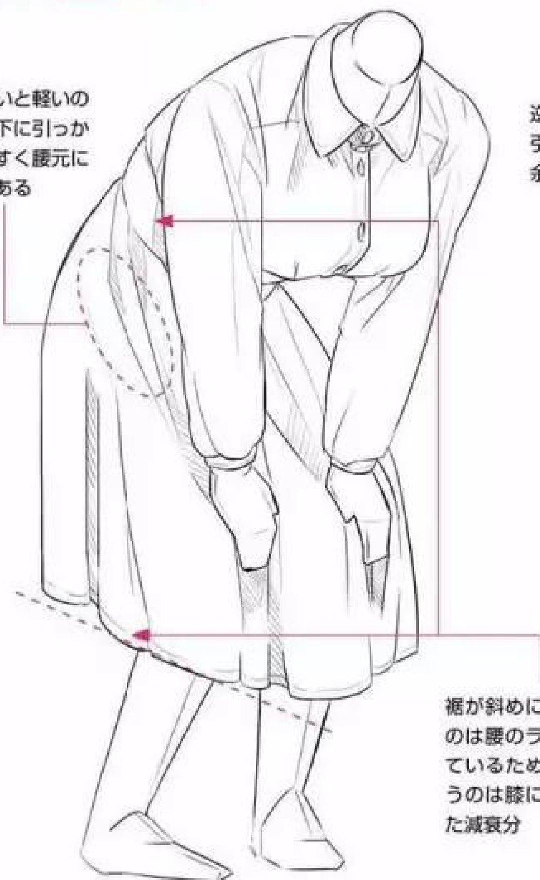
プリーツスカートのプリーツも、タックの手法。タックスカートと違い、裾まできっちり折り目を付ける。



ハイウエスト・フレアスカート着用時の動き

ハイウエストスカートの構造を理解したところで、いよいよパニエを入れた状態で動かしてみよう。シンプルなフレアスカートを使い、丈の差がどんな違いになるか、比較していく。

屈む（ミディ丈）



屈む（フルレングス丈）



歩く（ミディ丈）



歩く＋２歩目（フルレングス丈）

布が重い場合は、裏地がいくら摩擦抵抗の少ない布とはいえ、物理的にひっかかりやすくなる。重さで後ろに流れにくいので、後部にギャザーの塊は発生しない



椅子に座る（ミディ丈）



膝下までの丈が腰を下ろしてふくらはぎに届くが、パニエの上側の厚みの分だけやや上がっている

椅子に座る（フルレングス丈）



横に落ちる布を流れるままにすると、床についてしまう。パニエも支えきれず、厚みがほとんどなくなる

水辺に足を浸ける（ミディ丈）

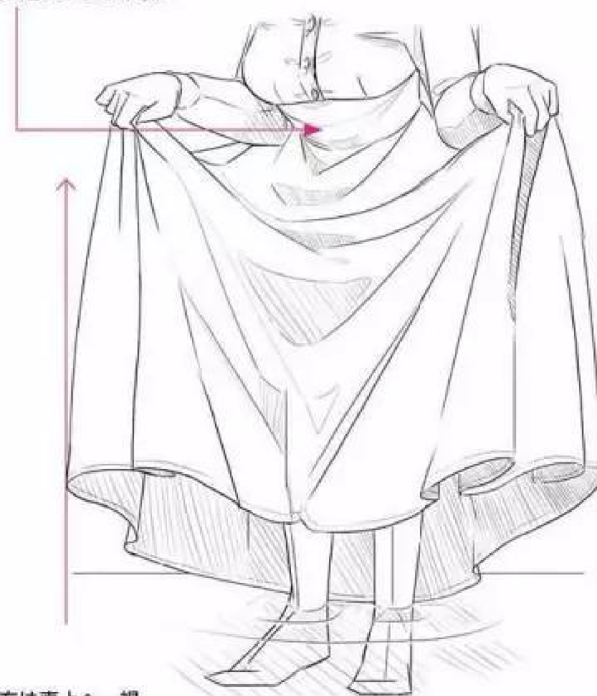
裾が水に浸からない場所は、意識が前方に向かって前屈みに。裾を引き上げるのは視界をよくするため



水辺は坂になっているので、両足に高低差がある。くるぶしが完全に隠れても問題ない

水辺に足を浸ける（フルレングス丈）

裾が足首まであると、深いところへ入れない。背筋もあまり曲げられないので、首だけで覗き込むような印象に



裾の引き上げ方は直上へ、視界をよくするためではなく水に浸けないためである

Lesson03

ハイウエスト・フレアスカートを穿く

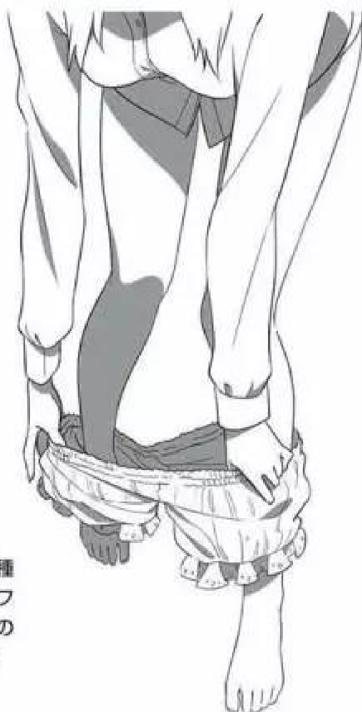
ついに本丸、スカートを穿く手順。まさにブラックボックスのログを解析するように、彼女らがどんな手順でスカートを穿いているのかを解析していこう。

童貞には未知の聖域

世の男性がスカートを穿くことは、よほど特殊な状況にならない限りないだろう。どんな手順で「童貞を殺す服」が形作られているのか、重要な手順をピックアップしてみた。

1. ドロワーズを穿く

物理的守備力の低いスカートを穿くにあたり、まずは鉄壁を誇るズボン型下着・ドロワーズを穿く



ドロワーズの長さにも種類があり、ミディ丈やフルレングスはロング丈のドロワーズを選択する

2. ブラウスの裾を差し込む（シャツイン）



ブラウスの裾を整えながら差し込む。可愛い服だからこそ、シルエットは丁寧に整えるのだ

3. 留め具で固定する



今回はファスナー。留め金具側をつまみ、スライダーを引き上げる

途中からはブラウスを巻き込まないようにウエスト部分をつまんでブラウスから浮かせる

ファスナーの長さは長短あり、位置は腰の左側または後ろの真ん中のどちらか。後ろの場合は横でファスナーを引き上げたあと、背中側へ回す

4. パニエを穿く



ドロワーズの上へ、さらにブラウスの上へパニエを引き上げる。パニエのウエストは腰にかけるように穿く



5. ブラウスを少し引き出す



ブラウスをきっちり差し込んでいると余裕がなく、少しの動きでシルエットが崩れてしまう。余裕を持たせ、動きやすくする

この手順は意外と見落としがちで、創作物でブラウスをきっちり差し込んだままの例が見られる

殺されないためのメモ

パニエを穿くか否かは本人の好みによるが、「童貞を殺す服」を着ている場合は大抵穿いているものと考えてよい（理由は P.58 にて解説）。パニエとドロワーズはセットで着用するものだし、大変な保持力がドロワーズにかかっているので、ドロワーズだけを脱がせることは困難だ。もし無理に引き抜いた場合、ドロワーズまたは女の子の身体が傷つくことが想定される。ブラウス同様、描くときも現実に扱うときも注意しよう。



▶**ハイウエストスカート**の穿き方は **P.48** へ
▶**チュールスカート**の穿き方は **P.53** へ
▶**ジャンパースカート**の穿き方は **P.71** へ

Lesson04

視線を翻弄するチュールスカート

ハイウエストスカートと双璧をなすと思われるのがこのチュールスカート。奇しくも本書執筆時点の2016年にはチュールスカートブームもあり、描く側、着る側として選択肢に挙がっているのではないだろうか。

チュールスカートの構造

チュールレースを普通の生地のスカートに重ねる、またはチュールレースを複数枚重ねるなどで製作されているこのスカートは、重なっている分複雑に見える。しかし、基本を押さえていれば何も難しいことはない。

ノーマル丈・正面



チュールレースが耐久性に欠けるので、大抵の場合ゴムウエストが採用されている

リボンウエストやベルトホールを設ける場合は、布地を切り替えるなど、何らかの対策を講じている

パニエ着用

中にパニエを穿く場合はソフトパニエを使うことが多い。ハードを使うとふんわり感がそこなわれるためだ



背面



ウエストのラインはほとんど出ない。重力ですぼまらず、ギャザーの反発でフレアのシルエットが維持される

横



チュールレースは、三面のどこから見ても下のスカートよりも長い

前後もゆるやかな広がりが見える。ヒップや下腹部もラインが見えないのがポイント

POINT チュールスカート本体について

チュールレースで忘れてはいけないのが「チュールレースは透ける」点。ストッキングにも使われる、糸の太さを表す単位D（デニール）によって濃さが変わる。そのため重ねることによって色が濃く、暗くなっていく。描く場合は乗算することを忘れずに。



片手で持ち上げる



チュールティアードスカート



チュールスカート着用時の動き

チュールスカートの特性について解説したところで、動きについて見ていこう。重なった布地の変化がわかりやすい動きを取り上げてみた。すべて中にソフトパニエを着用していることを前提としている。

跳ぶ

跳躍から落下にかけてのタイミングでスカート下方に空気抵抗が生じ、軽いチュールレースは本体から離れる



スカート本体やパニエにも空気抵抗は生じるので、身体の落下から遅れるにつれパニエの根本から大きくめくれ上がる

女の子座り

スカートを整えずに勢いよく座り込むと、「跳ぶ」のようにチュール部分だけが舞うので巻き込みが減って余る



舞う

軽い、薄い、柔らかいという特性が作用し、普通のスカートより大きく動く。回転に巻き込まれ、遠心力で舞い上がる



舞い上がっているため、裾も内側のスカートより高い位置になる

例 チュールスカートの着用（電車の座席）



軽いスカートなので、座面が左右に続き逃げる場所がないと、大きく広がってしまう

チュールスカートを穿く

層になっている以外は普通のスカートと変わらない、チュールスカート。先立ってハイウエストスカートを穿く手順を紹介したので拍子抜けされるかもしれないが、単純であるがゆえにしっかり基本を押さえておきたい。

ゴムウエストは恐るるに足らず

ハイウエストスカートを穿く項ではシャツインにしていたが、こちらはシャツアウトで変化を付けてみる。もちろんシャツインにする場合もあるので、服に合わせて手順を確認しよう。

1. 足を差し入れる



ドロワーズを穿いた状態で足を入れる（ドロワーズの穿き方はP.48へ）。この段階でゴムは伸びないので注意

裾が床に付いた状態は、布の強度の関係でチュールと本体の折れ方が違う。足元へ下ろした状況も想定しておく

2. キャミソールをスカートの下へ差し込む



シャツアウトにする場合でも、キャミソールの下にはスカートをもぐらせない。理由はP.58にて

3. パニエを穿く



ジャストウエストで保持するため、スカートのウエストと一緒に上まで引き上げる



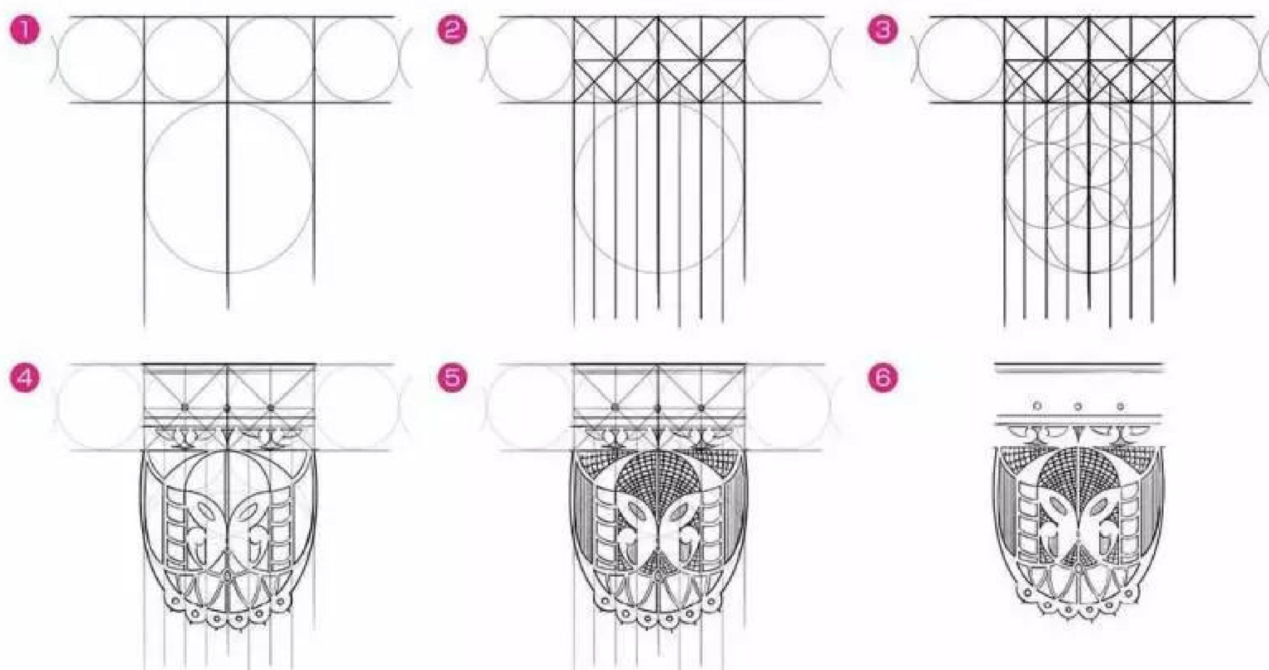
▶ブラウスの着方はP.30へ
▶ハイウエストスカートの穿き方はP.48へ
▶ジャンパースカートの穿き方はP.71へ

COLUMN-02

レースの描き方

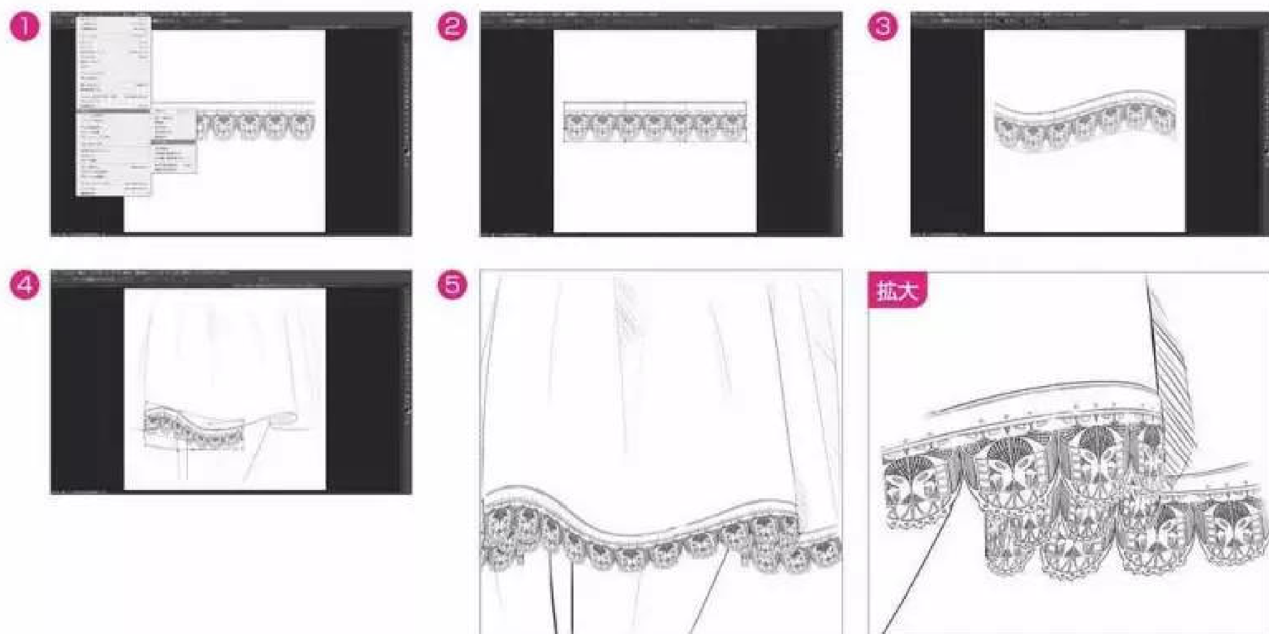
■レースパターンの作成

レースといえば美しい円形、半円形を基調にしたデザイン。左右対称であること（一部では植物などの模様を用いる）や連続性があることが美しさを引き立てている。
①～③まずはベースとなる枠線を作り、円や曲線を駆使して基本のデザインを組み立てていく。この作業にはドロー系ソフトの「線対称定規」などを利用するとよい。
④～⑥デザインを施す部分を描き込む。ステッチライン（実際に縫い付ける線）も描いておくと後々手間が省ける。



■使用例

今回は加工に Photoshop を使用。
①～③コピー＆ペーストで一直線に並べたものを統合し、1本のレースにする。編集タブから変形→ワープを選択すると枠とポイントが表示され、ドラッグすると波状に変形させせることができる。
④～⑥これを適用する場所に合わせて変形させ、レースが重なる余分な場所の線を消す。遠近感は幅を細くしたり圧縮することで表現する。

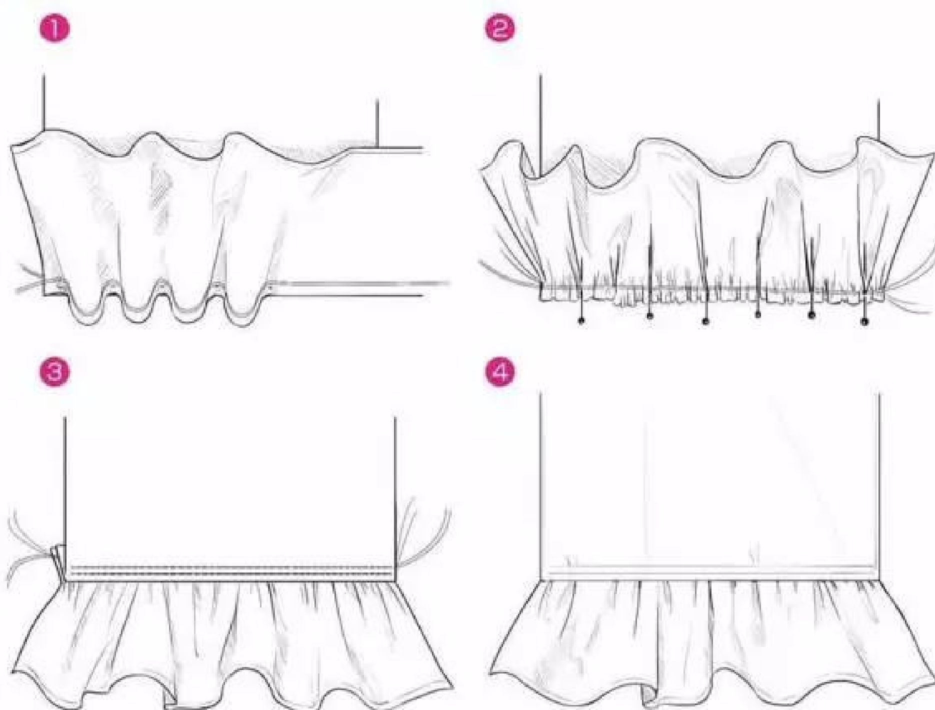


フリル・フレア（ギャザー）の構造から描き方を知る

■布を「寄せる」フリルの構造

土台の布よりも長いフリル用の布を用意し、ミシンで返し縫いをせずに一直線にステッチを入れる。①端と中心を揃え、ステッチの糸を串のように使って土台の布に対し均等に寄せ、②待ち針で留める。土台とギャザーを縫い付けたら③縫目を目立たなくさせるために折り返し、２本平行に縫い付ける。④布を寄せるために使ったステッチは引き抜いて完成。

この方法で作るフリルのメリットは比較的簡単に作れること、布を無駄なく使えることなどがあるが、デメリットとして縫い付け部分の厚みが増してしまう点などがある。小物や狭い範囲の装飾に向いている。



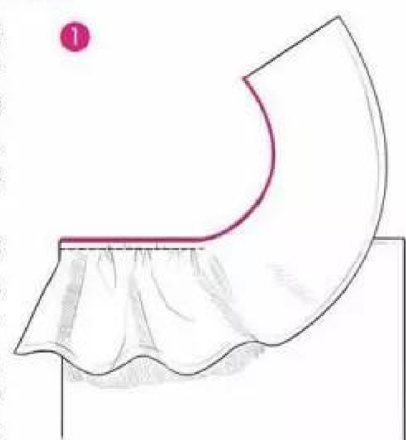
■布を「余らせる」フリルの構造

①同心円状に裁断した布を、短い辺で土台に合わせて縫い付ける。外周分の布が内周よりも余るので、これがフリルとなる。②裏返して綺麗にするのは、寄せるフリルの③④と同じ。

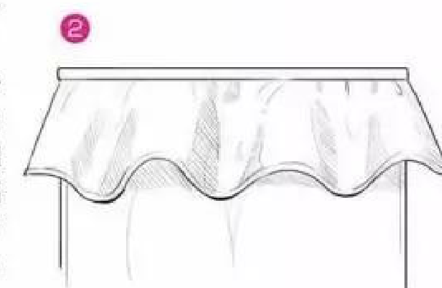
メリットは土台との接合部が厚くなりにくく、寄せジワが小さなもので済むこと。デメリットは布を余分に必要とすることと細かなギャザーの作成に向かないこと。大きな範囲の装飾に向いている。

実はフレアスカートやティアードスカートもこの手法で作られており、ギャザーを形成するものの原理は同じなのだ。

構造を理解すれば細かい部分の描写に説得力が出る。寄せるフリルは土台との接合部にも細かいシワが寄り、ギャザーも幅の狭いものになる。余らせるフリルはシワが寄りにくく、ゆったりしたギャザーになる。



赤いラインと土台の幅は同じ長さ。縫い付けながら徐々に布を余らせていく



解説に照らし合わせると、ウエスト部分が土台、スカート部分が大きなフリルとなる



フリル要素の動き

フリルの構造がわかったところで、いよいよ実践。フリルやフリルに属する装飾が施された服を動かしてみよう。どんな形状変化が起こるか、どの動きにギャザーが反応するかに注目してほしい。

フリルブラウス

■胸を張る



寄せるフリル。土台が反るように弧を描くが、布が伸びるわけではないので、ギャザーも伸びたりしない。

■背を丸める



土台が圧縮しているのでギャザーも圧縮される。縫い方向に対し圧縮されたようになり、厚みが高くなる。

■ひねる



引っ張り方向が斜めになると、土台がねじれる。このねじれに反応して、ギャザーも斜め方向によじれる。

ティアードスリーブ

■肘を曲げる

布を余らせる方法で作られている。折り曲げられた部分の左右、肘の内側に一番近いギャザーが大きく広がる。



アンガジャント

■腕を振る

布を寄せる方法で作られている。土台の移動が曲線なので、縦方向に弧を描いた分だけギャザーが広がっている。



フレアスカート

■舞う

比較用。ギャザーに相当するスカート部分が自重によって回転方向に舞い上がり、伸びたり縮んだりしている。



■翻す

すぼまった分重なる布の量が増え、シルエットが細くなり、ギャザーが寄って細かくなっている。



■風にあおられる

風が当たった場所が伸び、抜けていく方向に向かってギャザーが集中して寄る。



ティアードスカート

■舞う

各層の裾に寄せるフリルが装飾されたもの。スカート自体はフレアの短いものと考えてよい。フリルの装飾は裾の変化に追従して変形している。



■翻す

スカート１枚１枚が軽い上に厚みがあるので、フレアスカートほどすぼまらない。フリルは舞い上がった分だけ斜めに見える。



■風にあおられる

風が抜けていく場所は細かなギャザーとなる。フリル自体も風が当たるとつぶされたりあおられて伸びたように見える。



COLUMN-05

純粋な守備力を高めるランジェリー

■キャミソールのススメ

女性は清楚さとは無関係に、ブラの上へキャミソールという下着を着用する（トップスとしてのキャミソールもあるのでややこしいが、ご理解いただきたい）。これはブラを隠すためのほか、服と肌の摩擦を軽減する機能を担っており、特にスカートやコルセットで締めた部分の肌が傷つかないようにするためである。P.53でシャツアウトの穿き方を解説した際、キャミソールの上にウエストを保持させたのはこういう理由からである。キャミソールの丈にも種類があり、ワンピースやロングドレス、ジャストウエストのスカート用には丈が長いスリップというキャミソールを選択する。名前は違うが丈以外の形状と機能は同じだ。

ブラを隠すという点においては（これは女性の趣味によるところもあって、隠す気がない方もいるにはいるかもしれないが）キャミソールを着ることによる圧迫感を気にしたりしなければ、普通は隠すもの、透けさせるのは恥ずかしいこと、として認識されているのは間違いない。

このことから、雨の日やアクシデントによる「透けブラ」がいかに夢見がちな発想であるか理解いただけるだろう。現在は情操教育が発達してきた社会なので、よもや恥ずかしいことだと知らない女性はいないはずだ。ブラウスの下に直でブラが見えているように描写してしまうと、童貞をさらしかねない……かもしれない。



■ドロワーズとパニエの役割

キャミソール同様、ドロワーズとパニエにもスカートのシルエットを膨らませる以外に物理的な保護の役割がある。

スカートが盗撮やその他迷惑行為、犯罪行為に対し守備力に欠けることは周知の事実だ。それでもスカートを穿く理由は、「可愛い」という以外にも「脚が自由で楽」「風通しがいい」など、女性なりに合理的な理由が存在する。こうした需要を満たすために、ドロワーズがある。ドロワーズは「オーバーパンツ」「見せパン（見せてもいいパンツ）」の一種で、万一の際に本丸のショーツを見せないために存在する、鉄壁の守りなのだ。

オーバーパンツには重ねばきブルマ（紺パン）やスパッツ、ショートパンツなどいくつか種類があり、そのどれもが色気を減退させる効果がある（中にはオーバーパンツに性的魅力を感じる奇特な男性もいるにはいるらしいが）。しかし、これらは機能上デザインが野暮ったく、カジュアル感があってせっかくの童貞を殺す服に組み合わせるには見栄えが悪い。そこで、クラシカルな見せパン・ドロワーズ（＋パニエ）の出番というわけだ。

パニエはスカートのシルエットを膨らませるためで間違いないが、そこには「身体のラインを隠す」という表裏一体の理由が存在する。可愛い服が体のラインによって崩れてしまっては悲しい……そんな意図も働いているようだ。女性のファッションは、男性にとって何とも不可解なバランスの上に成り立っているらしい。



第3章

最終兵器（ワンピース）

ここから先は選ばれし者のみが挑戦を許される領域。スカートとパニエの重ね順など生ぬるいと言わんばかりの、形状の組み合わせが多種多様なワンピース＆ジャンパースカートを解説する。どうか最後まで付いてきてもらいたい。







Lesson01

童貞の理想を体現するワンピース

ジャンパースカートはトップスを着用することを前提にしているので、厳密にはワンピースではない。しかし、袖がないだけでワンピースに近い形状をしていることから、本項に統一している。

ワンピースとワンピースに近しい形状の服一覧 ※一部のみ紹介

スタンダードなワンピース

上下が接合されており、中にブラウスなどを着用する必要のないワンピース。下図の襟は切り替えを想定。



セーラーワンピース

セーラー襟が付いたワンピース。図のダブルボタンはフェイク、絞り位置がハイウエスト。



コルセットワンピース

コルセットとスカートが一体となり、胸部まで覆ったもの。ブラウスなしでも使用可能。



ホルターネックワンピース

首で前掛け部分を引っかけるものをホルターネックと呼ぶ。こちらもブラウスなしで使用可能なものがある。



ジャンパースカート

肩で吊り、前掛け部分になる布が存在するものはすべてジャンパースカート。ハイウエストのものもある。



ディアンドル

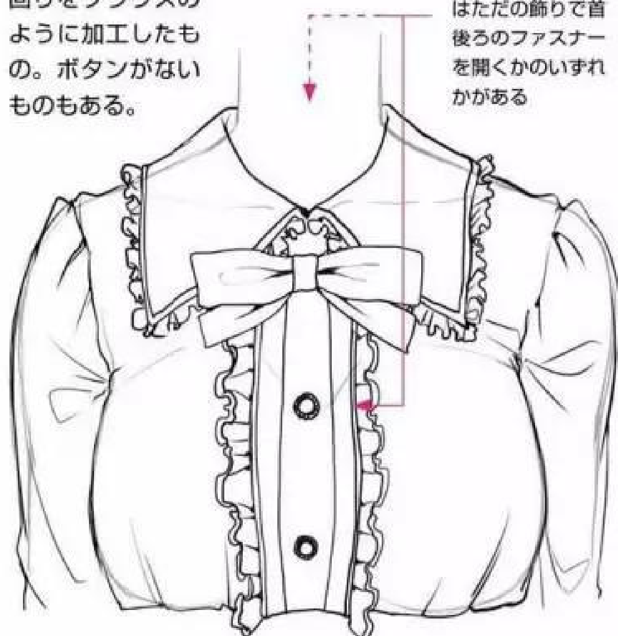
ブラウス、ジャンパースカート、エプロンを１セットで着用する、ドイツの女性用民族衣装。



首回りのバリエーション ※一部のみ紹介

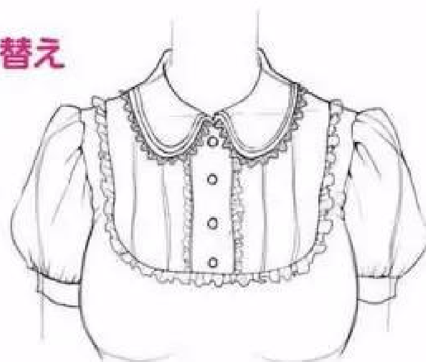
襟付き、装飾付き

ワンピースの首回りをブラウスのように加工したもの。ボタンがないものもある。



ヨーク切り替え

布地を切り替えて、例えば右図のようにブラウスを着てるように見せかけるもの。



スクエアネック

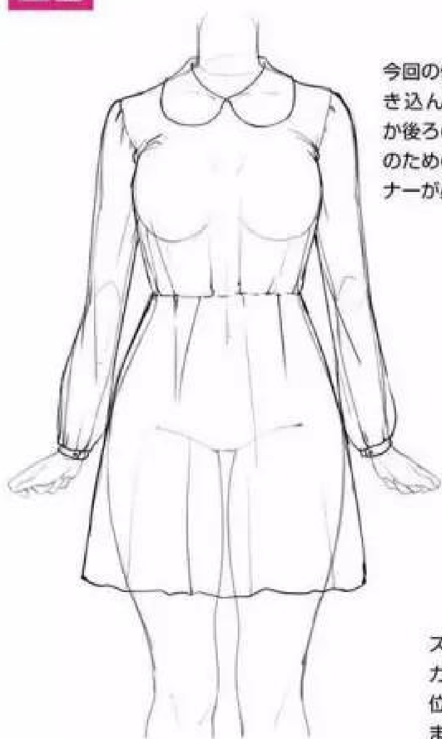
胸元を四角く切り欠いたもの。「童貞を殺す服」的には露出が少し多くなるので、攻撃力が高まる。



ワンピースの構造

基本構造は至ってシンプルだ。トップスとスカートを接合し、一続きの服として仕立てている。違う縫製としては、縦に長い布を裁断して作るものもある。そちらはよりシルエットがスマートになり、価格も値が張るものが多い。

正面



背面



横



ワンピースの描き方ポイント

シルエット自体は、ブラウス＋スカートとさほど変わらないことがわかったが、果たして動きについてはどうだろうか。今まで解説してきたブラウス＋ワンピースとの違いを比べてみよう。

上下の接合を意識する

上下一体ということは、胴の動きはほとんどが裾または肩まで影響するということ。肩を動かせば裾が、裾が引っ張られれば肩までつながる。全身のイラストから見てみよう。

自然体

比較用の自然体の状態。ウエストの絞り位置や接合部のシワなど、着用状態はどれもブラウス＋スカートと大差ない



裾を片手で持ち上げる



ウエストラインの位置を戻すのも容易なので、多少引っ張ってずれたところで裾を引っ張れば問題ない。自由度が高いともいえる

ばんざい

脇、肩から接合部を伝ってスカートを若干であるが引き上げる。ウエストにはゴムやベルトが入っている場合もあるので、腕を下ろしただけではウエストラインが戻らないことも

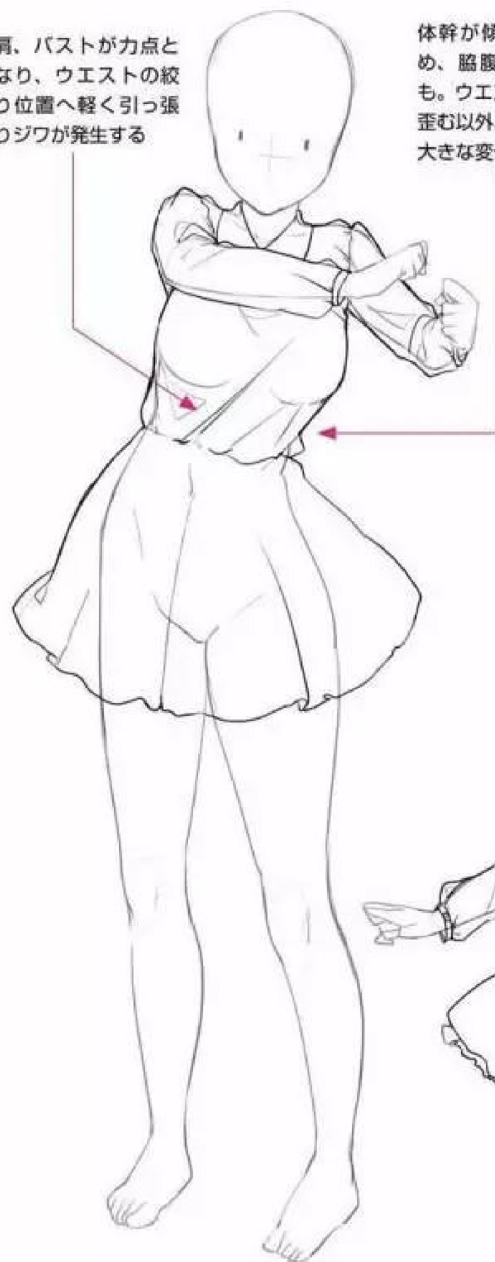


このアングルでは見えないが、いくらワンピースが一体だからとはいえ、中のパニエまでは一緒に動かない。裾が上がればパニエの裾が見えそうになる

ワンピースの着用時の動作

トップスとスカートが一体化したことによる力の伝わり方がわかったところで、実際に動かしてみたらどうなるのか。左右のねじりを加えた動きから解説していく。

上半身をひねる



身をよじる



小走り



Lesson03

上から被るワンピース、ジャンパースカート

ワンピース、ジャンパースカートには2つの着方がある。スカート側から被るか、背中側から穿くかのどちらかだ（例外的にスカートまでフロントボタンですべて開くものもある）。両者の違いを詳細に解説していく。

男性にはほぼ無縁の着方

ワンピースといえば男性諸君はなんとなくこの着方をイメージするだろう。おそらくイメージ通りだと思うが、細かな注意点がいくつかあるので１つ１つ確認してみよう。今回の彼女は頭にリボンを付けているが、外す指示を忘れていた撮影監督のミスである。

1. スカート側から袖に腕を通す

Tシャツやトレーナーと同じように、腕を入れて一気に被りやすくする。先に頭から被る人もいるが、布に伸縮性が少ないので身体が細い・柔らかい場合に限られる
首回りのボタンやファスナーを開いておくことも忘れずに



パニエは先に穿いておく

2. 首回りを開く



髪の毛を乱さないために、なるべく頭に触れないよう空間を作る

3. 頭を通す

頭を通し、肩から腰にかけて一気に下ろす



キャミソールや裏地で滑って腰までストンと落ちるが、身体とパニエの段差に引っかかる

今回のパニエはティアードスカート型のハードタイプを想定。つぶれにくいので、厚い生地や装飾で重くなりがちなゴシック＆ロリータの衣装で特に利用率が高い

4. 肩の位置を調整

肩の位置を調整したら、首回りの前開きボタンまたは背中のファスナーを閉じる



背中に編み上げのリボンなどがある場合は、このとき締め上げてウエストのラインを細く見せる

5. パニエをスカートの裾で覆う



パニエの外側に落ち切っていないスカートの裾があれば整える

殺されないためのメモ

頭から被るタイプは、前開きのボタンやレースアップ、背中のファスナーまたはボタン留めが頭を通せる分しか開かない。これが最大の特徴で、もし背中のファスナーが腰まで伸びていたりお腹やスカートの裾まで続くフロントボタンだったりすると、着方が変わる。すなわち、脱がす際の目安としてボタンやファスナーの長さを確認すれば、どう脱がせばいいかわかるのだ。



ウエスト締め付け用のリボンなどがない場合は、ベルトやコルセットを使って細く締め付ける

▶ブラウスの着方はP.30へ
▶ハイウエストスカートの穿き方はP.48へ
▶ジャンパースカートの穿き方はP.71へ

Lesson04

下から穿くワンピース、ジャンパースカート

次は下から穿くタイプ。ただ、P.71 で解説するサロペット型（オープンバック）のものと違い、背中を完全に覆っていることが特徴。守備力も殺傷力も高いので、一層気を引き締めてかかろう。

背中のファスナーが強敵

今回のバックジップタイプは、ヒップを通すためにお尻までファスナーが続いている。後ろ手にファスナーを上げる手順で紹介しているが、ゆとりのあるデザインの場合、身体が硬い人は前後を逆に穿いたあと、ファスナーを上げてから回すといったやり方で着ることもある。

1. 背中側から足を入れる

ドロワーズを穿いた状態から開始。ブラウスの裾も普通のスカート同様にウエストの下へ丁寧に差し込む



2. 肩を通す



最近人気が出てきた袖付きジャンパースカートの場合、ブラウスの袖に手を入れる手順（P.30）を参考に

3. ファスナーを途中まで上げる



肩からの関節が硬いと厳しいが、人体の構造上、肩甲骨より少し上あたりまで上げられる
また、挟み込まないように髪の毛を前に逃がすことにも注意

上述の通り、手を回せるなら後ろ手にファスナーを上げる。反対の手は留め金を押さえる

スライダーを持つ手は、手の甲が外を向いていたり、人差し指の第二関節と親指でスライダーを軽く握っていたりと人それぞれである

4. ファスナーを上げきる



肩甲骨の上あたりまでスライダーを上げきって締める。この段階でのスライド量は、頭を出すためだけのファスナーの長さとほとんど同じ

もう片方の手で背の真ん中あたりを押さえる。服が伸びて傷むので、一番下から引っ張るのはNG



殺されないためのメモ

背中を覆っているのに肩のあたりが開いていて、そのわりにファスナーがなく、上から着るのか下から穿くのかわからないものがある。その場合、後ろ身頃の半分以上に縦シワが入っていないだろうか。そういったものはシャーリングといって、ゴムが入っているウエストと同じでかなり伸びるのだ。上からでも下からでも着ることができる。ややこしいが、覚えておいて損はないだろう。





こちらも最後にベルトやコルセットなどで絞る場合がある

5. パニエを穿く



恒例の儀式

▶ブラウスの着方はP.30へ
▶ハイウエストスカートの穿き方はP.48へ
▶チュールスカートの穿き方はP.53へ

Lesson05

ジャンパースカートの描き方ポイント

前頁でジャンパースカートの穿き方を解説しているが、改めて描き方ポイントを解説していきたい。ジャンパースカートは「肩で吊る」「腹部または胸部まで覆う前掛け部分がある」ことが最大の特徴だ。

トップス胸側の形状一覧 ※一部のみ紹介

首まで覆うタイプ

学生服によく見られるタイプ。守備力が高く、デザインによって魅力も伸びる傾向にある。



胸開き

胸を強調する、攻撃力の高いタイプ。バストサイズとブラウスのデザインでステータス値が変動しやすい。



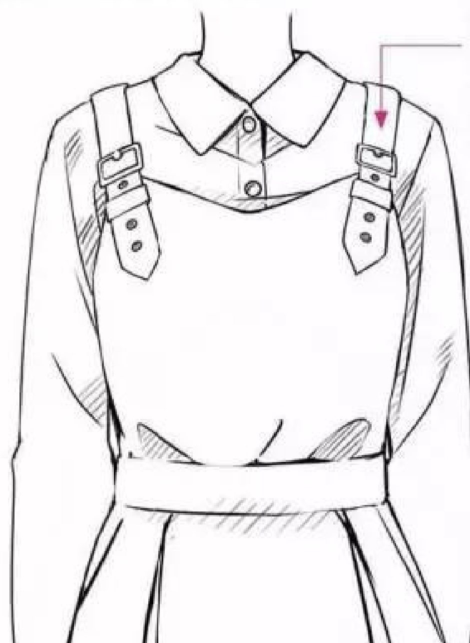


この2つは※フェイクレイヤードのものもあり、例えば左は襟と袖が一体だとワンピース、右は胸の部分が切り替えで胸まで覆うジャンパースカートだったりする。よく観察されたし

※重ね着（レイヤード）に見えるように作られたデザインの服のこと

サロペットタイプ

バックル自体にハードな印象があるので、敏捷性が高くなる。これは「童貞を殺す服」に使われやすい部品かそうでないかによる違いなので、一概にはいえない



デニム地やシンプルなデザインのものに多い。もちろんバックルがないものは守備力が高め。

ボタン留め

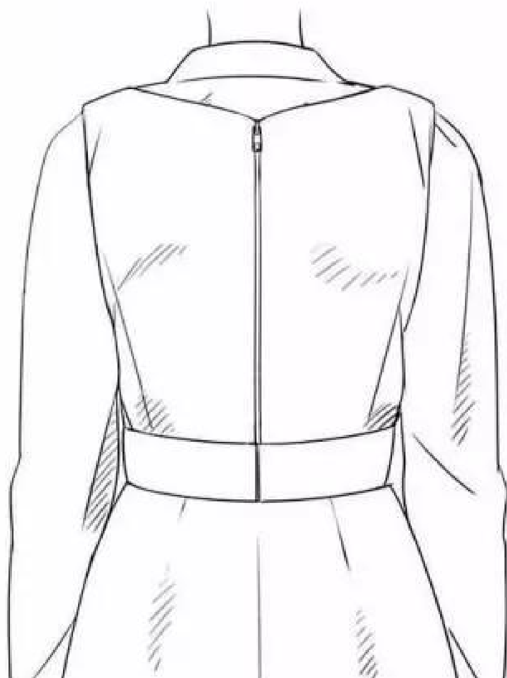


これも特に殺傷力が高そうに見えないが、実は襟がスカート部分と一体化していたり、ただの飾りボタンだったりと非常にややこしい。背中にファスナーがあればフェイクの可能性が高いので注意しよう。

トップス背中側の形状一覧 ※一部のみ紹介

バックジップ

ファスナーにカジュアルな印象があるので、基本的に敏捷性が高く殺傷力が低い。



ウエストを割っているのが下から穿くタイプ、肩甲骨あたりまでしか開かないのは上から着るタイプ

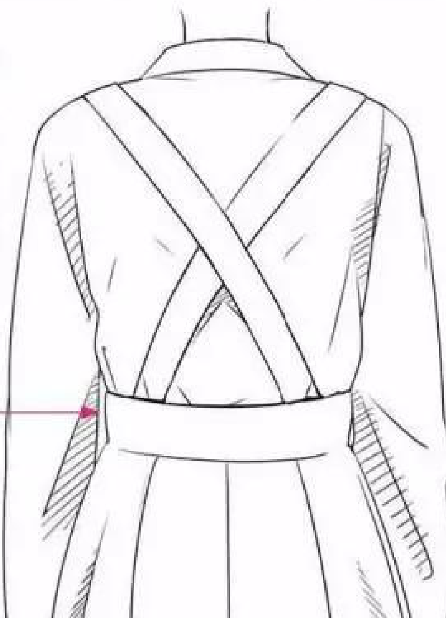
編み上げ

守備力が高く敏捷性が低いタイプ。背を覆う布にシワが入っているのはシャーリングという加工で、中に平ゴムが内蔵されている。



バッククロス

サスペンダー付きスカートでもある、オープンバックタイプの1つ。同じオープンバックにホルターネックやストレートなものがあり、脱着が容易。

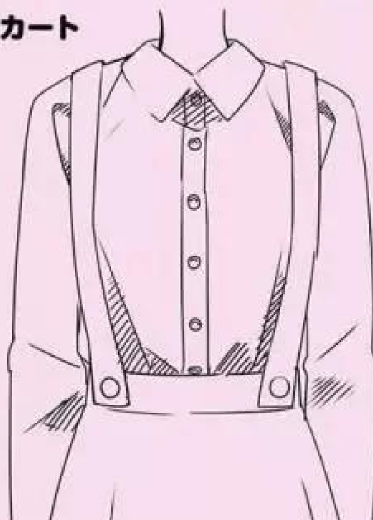


ウエストの背中（腰）にファスナーがなく、シャーリング加工もないということは、左側にファスナーが付いている

POINT ジャンパースカートに含まないもの

サスペンダー付きスカート

「腹部または胸部を覆う前掛け」に相当する布が存在しない。そもそもサスペンダー＋スカートなので、まったくの別物というわけだ。ちなみにサスペンダーとなる帯がスカート一体型のものもある。



袖なしワンピース

一見首まで覆うバックジップのものに見えるが、実はジャンパースカートではない。襟が一体型＆脇が詰まっている（＝ブラウスを通すだけの余裕がない。ここが重要）点が区別するポイント。



ジャンパースカート着用時の動き

ワンピースとあまり変わらないが、ブラウスが分離している点が決定的に違う。袖の動きが（摩擦抵抗程度の影響はあるが）ほとんどジャンパースカートに影響を与えないので、それ以外で動きのあるポージングをピックアップしてみた。

伸びをする

ワンピースのばんざい程度ではなく、背中が伸びる程度に腕を伸ばした状態



肩が首に寄った分だけ引っ張られてウエストが上がり、中のパニエに沿うようにスカートがほんの少ししぼむ

膝を抱えて座る



膝にパニエが持ち上げられ、さらにヒップの自重で中が圧縮された状態。普通はドロワーズも重力で落ちてしまうが、腿の太さにもよる

椅子に座る

完全に脱力しておらず、腕で支えている状態。座面に浅く腰掛け、腰が斜めになっているので腹部にシワが寄っていない





ジャンパースカート着用



オープンバックなジャンパースカートを穿く

着脱が容易とはいいつつ、実際に着る手順を知らなければ弱点を知らずに難敵に挑むようなもの。P.64、P.66では高難度の着衣シーンを解説したので、本項では低難度のものを取り上げてみた。

オープンバスト+バッククロスは最弱

いきなりぶっちゃけてしまったが、これ以上なく脱ぎ着の手順が解りやすいものはない。フロントにボタンはなく、背中にファスナーもない。あるのは編み上げのリボンだけとくれば、背中側から普通のスカートと同じように穿くだけだ。

1. 足を入れる



ドロワーズを穿いた状態で足を入れる。掴んで引き上げるのはウエスト部分で、前掛け部分や脇の布はだらんとしている

2. 肩吊り帯を肩にかける



バストに前掛け部分の布が到達する前に片方の肩を通してしまい、もう片方も腕を下ろした状態で引き上げる

袖付きジャンパースカートの場合、肩の動きを制限するような布の接合はされないので、腹部に前掛け部分が来たら袖に腕を通せばよい

3. 編み上げリボンで締める



編み上げのリボンを締める。シャーリング加工がなされたものはほどけないようにだけ結び、あまりきつく締める必要はない



▶ハイウエストスカートの穿き方は P.48 へ
▶チュールスカートの穿き方は P.53 へ
▶上から被るワンピースの着方は P.64 へ

素材集の活用

■時間短縮、クオリティアップのために

P.6でも素材の使い方を解説した通り、素材集を活用するというのは決して悪いことではない。むしろ装丁デザインや漫画におけるトーンの使用は当たり前のこと。ある程度描く力を身に付け、「より凝ったものを、人とは違うものを」と目指し始めたとき、初めて自分で素材作りに挑戦するのがいい。

素材の使い方に関しては、柄の塗りつぶしやワンポイントの装飾など、アイディア次第でいくらでも幅を広げることができる。特に「童貞を殺す服」ジャンルの服は柄物の生地や凝ったアイテムが多いので、積極的に使って時間短縮・クオリティアップにつなげてもらいたい。ただし、配布物に関しては利用規約が設定されたものがほとんどだ。「無償や二次創作での利用は可であっても商用はＮＧ」など、素材ごとに使える範囲が決まっているので、きちんと用法は守って創作を楽しもう。もっと「童貞を殺す服」を着たキャラクターが増えることを願うばかりだ。







第4章

いかにして彼女らは童貞を殺すのか

「童貞を殺す服」は服だけが重要なわけではない。服にマッチする小物類や、彼女たちが見せるちょっとした仕草、表情の相乗効果があって初めて男性への大ダメージにつながる。では、どんな小物が、どんな状況が男性に対する有効打になるのか、少しだけご覧いただこう。







Lesson01

童貞を殺す武装の数々

頭からつま先まで、彼女たちのセルフプロデュースは徹底している。可愛いものをただ漠然と所持するわけではなく、服とアイテムを組み合わせたトータルコーディネートを常に意識しているのだ。

追加ダメージを与えるヘアアクセ

リボン

最強のサブ装備。守備力のほか魅力、知力、敏捷性まで上げてしまう。ズレ防止にヘアゴムを併用することも。

カチューシャ

プラスチックまたは金属製のヘアバンド。魅力が高くなりやすい。リボンや造花などを装飾する場合もある。

ブローチ

洋服やバッグに付けるアクセサリーを、バレッタやUピンなどの髪留めに付けて加工したもの。種類が豊富。







シュシュ

チューブ状に縫った布にゴムを通したアクセサリー。髪を結ぶほか、腕に飾ることもある。敏捷性が高くなる。



プチハット

バレッタで固定するほか、リボンで固定することもある。敏捷性は著しく下がり、魅力や殺傷力を底上げする。



各ステータスを向上させるソックス類

ソックス

ふくらはぎの下あたりまでを覆う靴下。ロークルーとも呼ばれる。ふくらはぎをスリムに見せる効果がある。

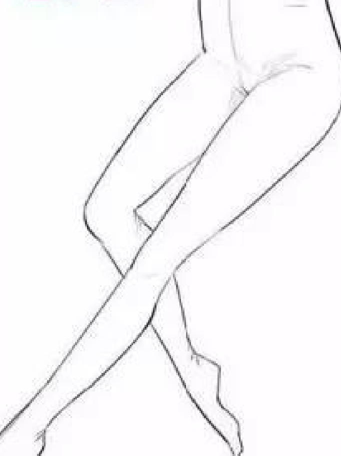


クルーソックス

船員が愛用していたことに由来。これとハイソックスあたりをミディ丈のスカートと合わせることが多い。



タイツ



最強の守備かつデザイン次第で魅力、知力いずれかをガン上げ。ストッキング派、ニーハイ派と戦争状態にある。

ハイソックス

場合によってはふくらはぎが太く見えるので、スカート丈との相談を要する。



オーバーニー

ミニ丈とよく組み合わされることが多いが、敏捷性は低め。パンクファッションにもよく用いられる。



動きに華を添えるバッグ類

ポシェット

フランス語で小さなポケットの意味。小物用の鞄で、手荷物をできるだけ少なくしたい場合に重宝される。女性の服はポケットが少ないこともあり、大抵鞄を携行している。



トートバッグ

ハンドバッグの一種。機能性が高く多用途で、凝ったデザインのものも多い。









ミニリュック

魅力を高める。ポシェットもそうだが、手荷物は少ないほうがトータルで可愛い、と考える女性が多いようだ。

ハンドバッグ

手に持つ小型の鞄全般を指す。ケリーバッグのような形状やスクールバッグなどが一般的。

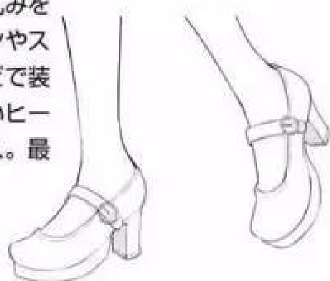
ショルダーバッグ

ポシェットより容量が大きく肩紐も丈夫。「パイスラ」で話題になり、使い方に気を付ける女性が増えた。

靴下のステータス上昇値を高めるシューズ類

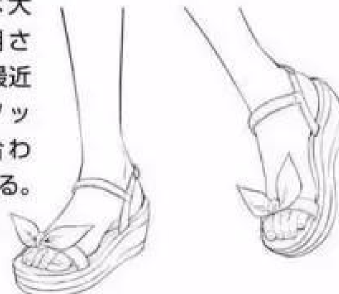
ロリータパンプス

つま先が丸みを帯び、リボンやストラップなどで装飾された厚いヒールのパンプス。最強の靴。

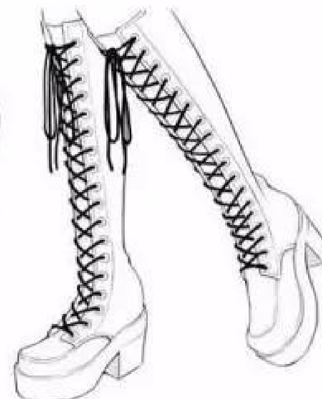


サンダル

これまでは大抵素足で使用されてきたが、最近は短い丈のソックスと組み合わせる場合もある。守備力は低め。



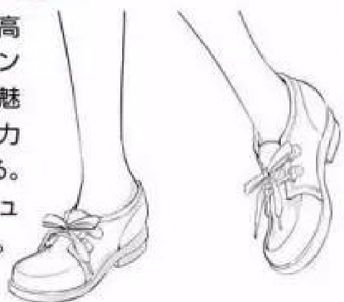
ロングブーツ



「童貞を殺す服」的に敏捷性が低下するが、魅力が高くなりやすい。これを脱がせる状況は相当特殊だろう。

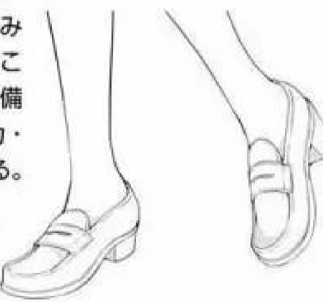
スニーカー

敏捷性が高く、デザインによっては魅力または知力が高くなる。ボーイッシュなアイテム。



ローファー

学生服に組み合わせられることが多く、守備力に加え魅力・知力も向上する。定番中の定番。



童貞をオーバーキルするポーズ・シチュエーション集

男性は女性のどんな仕草や表情にドキッとするのか。たとえそれが夢や空想の産物であってもいい、こんな女性やシチュエーションに憧れる……という希望の一部をご紹介しよう。

▶ こだわり派の彼女とおうちデート

スタンドカラーブラウス
コルセットジャンパースカート
ボーダータイツ
ヘアリボン

SITUATION

ローテーブルを前に、女の子座りでお茶をする彼女を眺め、僕も手にしたソーサーからカップを持ち上げる。「どう？　私が淹れた紅茶は」と目が語っていた。答えは知っているくせに。





◀ ソファでうたたね

ケープ
ブラウス
ダブルボタンジャンパースカート
オーバーニーソックス

SITUATION

背伸びしたいお年頃の彼女は、少しお高い喫茶店で休憩を所望する。疲れていたのか、注文を済ませるなり肘掛に体を預けて寝入ってしまった。どうか僕以外の誰かに、そんな無防備な姿はさらさないでおくれよ。



◀誤って押し倒してしまう

胸開きジャンパースカート
フリルブラウス
リボンブローチ
タイツ
ロリータパンプス

SITUATION

どこをどう間違えばこんな体勢になるのかわからないが、僕は不覚にも彼女を押し倒してしまった。幸いカーペットだったから怪我をせずにすんだものの、その表情は一体何なんだ？



▶お姫様抱っこ

ジャボ付き半袖ワンピース
オーバーニーソックス
ストラップパンプス

SITUATION

幼い頃、お姫様に憧れていた彼女に、冗談交じりにお姫様抱っこを要求される。軽々と持ち上げてみると、イチゴのように顔を赤く染める。きっと教会でも同じ表情をするのだろう。

▶ 邸宅でのお茶会

クラシカルブラウス
胸開きジャンパースカート
リボン付きヘアゴム
レース柄タイツ
ロリータパンプス

SITUATION

雲の上の存在である家柄の彼女と、昼下がりのお茶会。僕の話を楽しそうに聞いてくれる彼女は、僕の人生に現れた女神だ。「今度、父がお話ししたいそうですわ」——えっ？





◀ 真冬のウィンドウショッピング

ダブルボタンケープコート
ハイウエストスカート
ウールタイツ
ウィンターブーツ
イヤーマフ

SITUATION

カラフルなイルミネーションに彩られた街中で、彼女は“あの日”の話ばかりする。今までただただ冷めきった心境で過ごしてきた僕にとって、今年は初めて浮かれながら過ごせそうだ。



◀ 待ち合わせ

ハイウエスト・セーラーワンピース
ヘアリボン
タイツ
ストラップパンプス

SITUATION

少し遅れて到着すると、彼女は時計を気にしながらそこに立っていた。待たせた申し訳なさを感じる以上に、遠目に見る彼女の姿に見惚れてしまう。何と言って謝ろうか、そう考えることさえ楽しい。



▶ 童貞を殺す構え

フリルブラウス
ジャンパースカート
タイツ
パンプス

SITUATION

つよい。

イラストレーター紹介

ゆらん
http://www.pixiv.net/member.php?id=2696273
●担当ページ
カバー、P.02、P.03、P.04

イセ川ヤスタカ
http://pixiv.me/pgq7747
●担当ページ
P.14、P.15、P.16、P.58

火星ユキミツ
http://www.pixiv.net/member.php?id=5179
●担当ページ
P.79

キヌガサ雄一
http://sturmunddrangkinugasa.web.fc2.com/
●担当ページ
P.68、P.69、P.77

くま（合同会社スリーペンズ）
http://www.threepens.com/
●担当ページ
P.69、P.74、P.75

zpolice（株式会社チップチューン）
https://twitter.com/zpolice
●担当ページ
P.11、P.12、P.13、P.30、P.31、P.48、P.49

chimaki（合同会社スリーペンズ）
http://www.threepens.com/
●担当ページ
P.21、P.22、P.23、P.24、P.25、P.38、P.70、P.71、P76

鳥居すみ
http://airdrop.xii.jp/
●担当ページ
P.26、P.27、P.78

和（なごみ）
http://www.pixiv.net/member.php?id=10457532
●担当ページ
P.05、P.06、P.07

能義たか好
http://www.pixiv.net/member.php?id=1067404
●担当ページ
P.08、P.09、P.10、P.64、P.65、P.66、P.67

ひづきみや
https://twitter.com/Hizuki_miya
●担当ページ
P.50、P.51、P.52、P.53、P.77

平（ひら）
http://aitenhimegimi.web.fc2.com/
●担当ページ
P.37、P.43、P.52、P.70、P.79

水溜鳥
http://mizutame-tori.jimdo.com/
●担当ページ
P.18、P.19、P.20、P.28、P.29、P.32、P.33、P.34、P.35、P.36、P.37、P.40、P.41、P.44、P.45、P.46、P.47、P54、P.55、P.56、P.57、P.60、P.74、P.75、P.78

uni
http://twitter.com/yumemiUni
●担当ページ
P.20、P.21、P.42、P.43、P.61、P.62、P.63、P76

童貞を殺す服の描き方

構成・執筆　スタジオ・ハードデラックス株式会社　高松良次／小俣元／川島万優
デザイン　スタジオ・ハードデラックス株式会社　岡澤風花
編集　設楽菜月
編集協力　岡部充宏

発行人　原田 修
編集人　串田 誠
発行所　株式会社一迅社
〒160-0022
東京都新宿区新宿2-5-10　成信ビル8F
03-5312-6132(編集部)
03-5312-6150(販売部)

Printed in JAPAN
ISBN 978-4-7580-1516-5